

令和5年度
全国学力・学習状況調査
長野県の結果

長野県教育委員会

目 次

I	全国学力・学習状況調査の実施状況	1
II	全国学力・学習状況調査からみた長野県の成果と課題	2
1	教科に関する調査の結果と分析	2
(1)	令和5年度 教科に関する調査の結果と分析	
(2)	これまで（平成19年度～令和5年度）の調査結果の経年変化と分析	
(3)	過去5回（平成30年度～令和5年度）の調査結果の経年変化と分析（標準化得点）	
(4)	過去5回（平成30年度～令和5年度）の調査結果の経年変化と分析（平均正答率・無解答率）	
2	質問紙調査の結果と分析	19
(1)	令和5年度 質問紙調査の結果と分析	
(2)	過去3回（令和3年度～令和5年度）の調査結果の経年変化と分析	
III	全国の分析との比較	26
1	教科に関する調査結果	27
2	学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の取組状況	30
(1)	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善①～④	
(2)	個別最適な学び（個に応じた指導）・協働的な学びに関する状況	
(3)	カリキュラム・マネジメントに関する状況	
3	教科に関する質問紙調査の状況 国語	36
(1)	児童の興味関心と小学校の指導状況	
(2)	生徒の興味関心と中学校の指導状況	
4	教科に関する質問紙調査の状況 算数・数学	38
(1)	児童の興味関心と小学校の指導状況	
(2)	生徒の興味関心と中学校の指導状況	
5	教科に関する質問紙調査の状況 英語	40
(1)	児童の興味関心	
(2)	生徒の興味関心	
(3)	中学校の指導状況と生徒の受け止め	
6	ICTを活用した学習状況	44
(1)	ICTの活用状況等①～③	
(2)	個別最適な学び（個に応じた指導）や主体的・対話的で深い学びにおけるICTの活用状況等①②	
(3)	ICTの活用を推進するための有効な取組	
7	児童生徒の挑戦心、自己有用感、幸福感等に関する状況	50

I 全国学力・学習状況調査の実施状況

1 実施日 令和5年4月18日（火）

2 対象学年 小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年
中学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年

3 調査事項及び手法

（1）児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査

（ア）国語、算数・数学及び英語（中学校のみ）の3教科について、調査を実施した。

（イ）出題範囲は、調査する学年の前年度までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの教科に関し、以下のとおりであった。

①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識及び技能 等

②知識及び技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力 等

（ウ）調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととし、出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入した。

イ 質問紙調査（児童・生徒質問紙調査）

質問紙調査は、学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査を実施した。

（2）学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査を実施した。

4 令和5年4月18日（火）に調査を実施した学校・児童生徒数

〔表 I〕 調査実施校数及び児童生徒数

	小学校		中学校	
	実施校数	児童数	実施校数	生徒数
長野県（公立）	353 校	15,800 人	185 校	15,277 人
全 国（公立）	18,619 校	964,350 人	9,339 校	893,528 人

※調査を実施した児童生徒数は、回収された解答用紙が最も多かった教科の解答用紙の枚数で算出した。

※全国学力・学習状況調査の教科調査問題、質問紙調査問題、全国の状況などは、国立教育政策研究所のホームページ（<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>）を参照のこと。

II 全国学力・学習状況調査からみた長野県の成果と課題

1 教科に関する調査の結果と分析

(1) 令和5年度 教科に関する調査の結果と分析

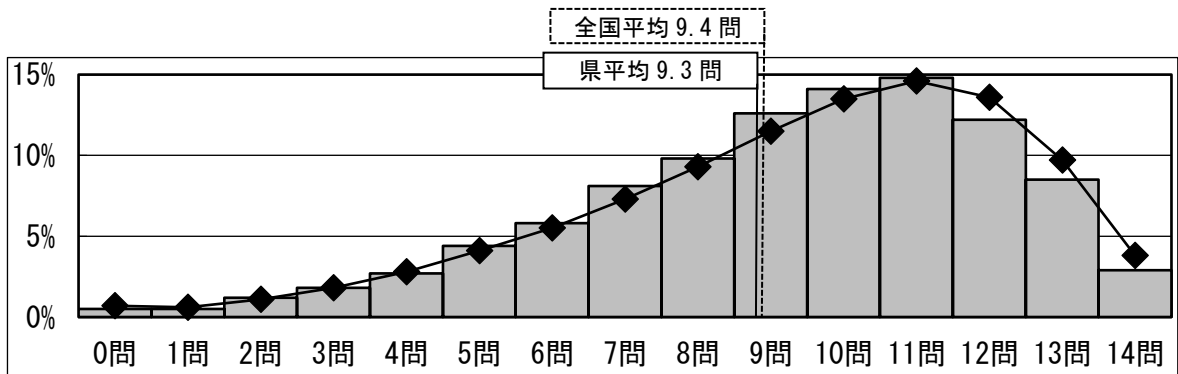
ア 小学校における平均正答率及び平均正答数、正答数分布と分析

(ア) 平均正答率及び平均正答数、正答数分布

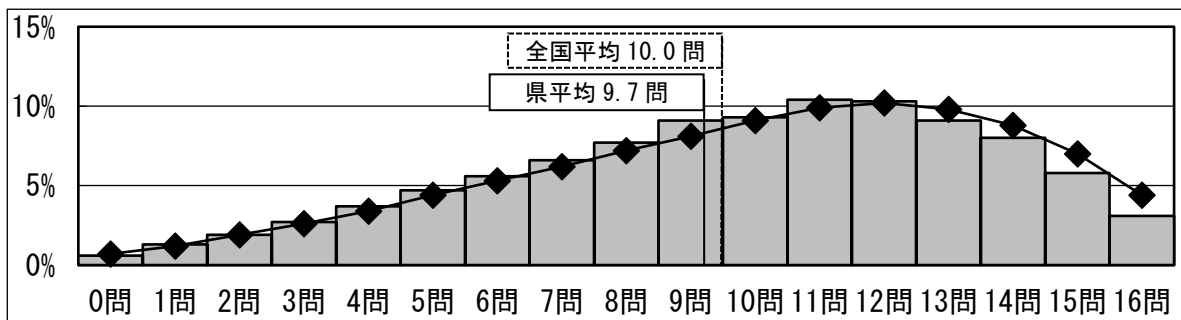
〔表Ⅱ-1〕 教科に関する調査の平均正答率及び平均正答数（小学校）

科目	区 分	平均正答率	平均正答数／全問数
国語	長野県（公立）	66%	9.3／14問
	全 国（公立）	67.2%	9.4／14問
算数	長野県（公立）	61%	9.7／16問
	全 国（公立）	62.5%	10.0／16問

〔グラフⅡ-1〕 正答数分布グラフ（国語）※グラフⅡ-1、2の横軸は正答数、縦軸は割合を示す。



〔グラフⅡ-2〕 正答数分布グラフ（算数）



(イ) 分析

- ・国語の平均正答数は、全国と同程度である。(表Ⅱ-1)
- ・算数の平均正答数は、全国を0.3ポイント下回った。(表Ⅱ-1)
- ・国語と算数の正答数の分布は、全国とほぼ同様の傾向である。(グラフⅡ-1、2)
- ・国語では、正答数が7問から10問の児童の割合が全国平均よりも高く、正答数が12問以上の児童の割合が全国平均よりも低い。(グラフⅡ-1)
- ・算数では、正答数が7問から9問の児童の割合が全国平均よりも高く、正答数が13問以上の児童の割合が全国平均よりも低い。(グラフⅡ-2)

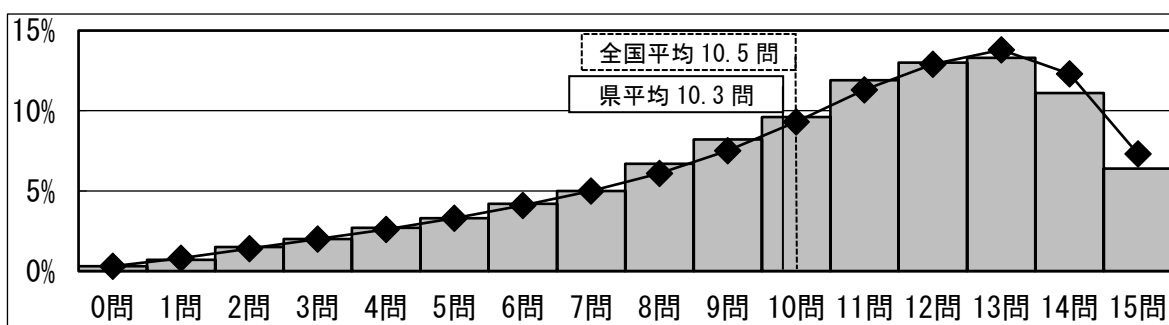
イ 中学校における平均正答率及び平均正答数、正答数分布と分析

(ア) 平均正答率及び平均正答数、正答数分布

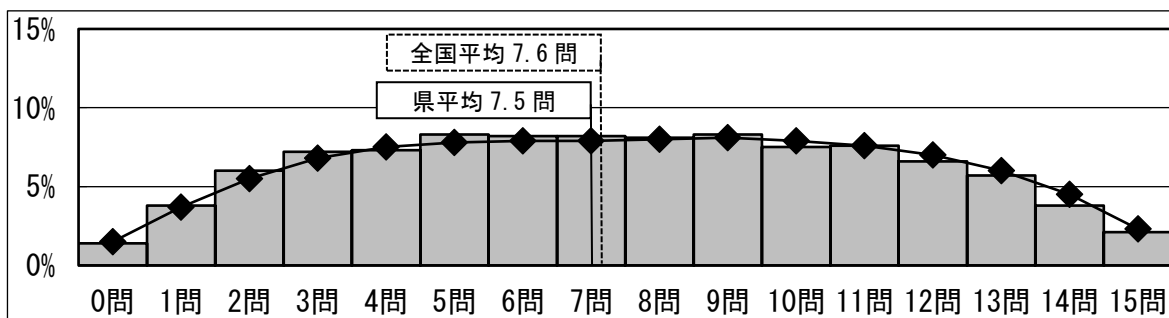
〔表Ⅱ-2〕 教科に関する調査の平均正答率及び平均正答数(中学校)

科目	区 分	平均正答率	平均正答数／全問数
国語	長野県(公立)	69%	10.3／15問
	全 国(公立)	69.8%	10.5／15問
数学	長野県(公立)	50%	7.5／15問
	全 国(公立)	51.0%	7.6／15問
英語	長野県(公立)	43%	7.3／17問
	全 国(公立)	45.6%	7.7／17問

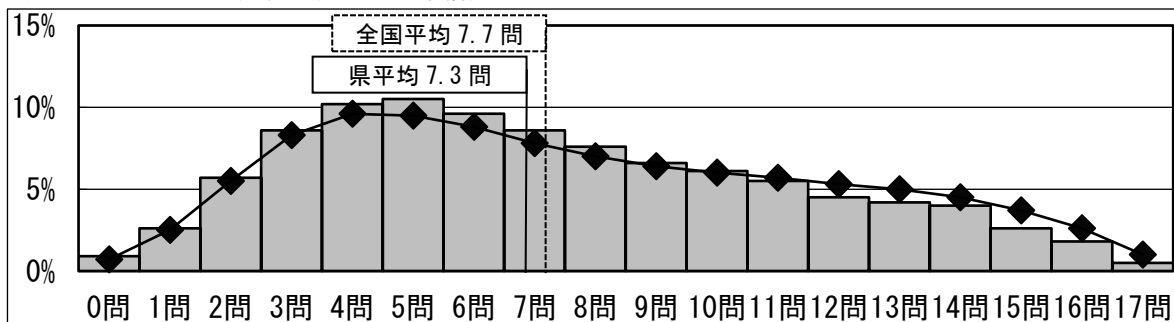
〔グラフⅡ-3〕 正答数分布グラフ(国語) ※グラフⅡ-3、4、5の横軸は正答数、縦軸は割合を示す。



〔グラフⅡ-4〕 正答数分布グラフ(数学)



〔グラフⅡ-5〕 正答数分布グラフ（英語）



(イ) 分析

- ・数学の平均正答数は、全国と同程度である。(表Ⅱ-2)
- ・国語の平均正答数は0.2ポイント、英語の平均正答数は0.4ポイント、全国を下回った。
(表Ⅱ-2)
- ・国語、数学、英語の正答数の分布は、全国とほぼ同様の傾向である。
(グラフⅡ-3、4、5)
- ・国語では、正答数が13問以上の生徒の割合が全国平均よりも低い。(グラフⅡ-3)
- ・英語では、正答数が4問から8問の生徒の割合が全国平均よりも高く、12問以上の生徒の割合が全国平均よりも低い。(グラフⅡ-5)

(2) これまで（平成19年度～令和5年度）の調査結果の経年変化と分析

ア 小学校における経年変化（平均正答率）と分析

(ア) 平均正答率

〔表Ⅱ-3〕 教科に関する調査の平均正答率の経年変化（小学校）

教科	県・全国	H19	H20	H21	H22*	H24*	H25	H26	H27	H28	H29	H30	教科	H31	R3	R4	R5			
		(悉皆)	(悉皆)	(悉皆)	(抽出)	(抽出)	(悉皆)	(悉皆)	(悉皆)	(悉皆)	(悉皆)	(悉皆)		(R元)	(悉皆)	(悉皆)	(悉皆)			
国語A	県(公立)	82	67	70	83~85	82~83	64	73	70	74	75	72	国語	64	63	66	66			
	全国(公立)	82	65	70	83~84	81~82	63	73	70	73	75	71		64	65	66	67			
	全国との差	0	+2	0			+1	0	0	+1	0	+1		0	-2	0	-1			
国語B	県(公立)	63	51	51	78~80	55~57	50	57	66	59	57	55								
	全国(公立)	62	51	51	78	55~56	49	56	65	58	58	55								
	全国との差	+1	0	0			+1	+1	+1	+1	-1	0								
算数A	県(公立)	84	72	80	73~75	72~74	78	79	75	77	78	62	算数	66	70	62	61			
	全国(公立)	82	72	79	74	73~74	77	78	75	78	79	64		67	70	63	63			
	全国との差	+2	0	+1			+1	+1	0	-1	-1	-2		-1	0	-1	-2			
算数B	県(公立)	64	51	54	48~49	58~60	60	59	45	47	46	50								
	全国(公立)	64	52	55	49~50	59	58	58	45	47	46	52								
	全国との差	0	-1	-1			+2	+1	0	0	0	-2								
理科	県(公立)					60~62			61			61					63			
	全国(公立)					61			61			60								63
	全国との差								0			+1								0

※H22年度、H24年度調査は抽出で実施されたため、全員を対象とした調査(悉皆調査)の平均正答率が95%の確率で含まれる範囲を「〇～〇」と示している。

※全国との差を示すために、全国(公立)の値は四捨五入し整数値で示してある。

(イ) 分析 ◇：成果 ◆：課題

◆国語は、令和4年度における全国の平均正答率との差が0であったが、令和5年度は-1である。(表Ⅱ-3)

◆算数は、全国の平均正答率との差は、令和3年度が0、令和4年度は-1であったが、令和5年度は-2である。(表Ⅱ-3)

イ 中学校における経年変化(平均正答率)と分析

(ア) 平均正答率

〔表Ⅱ-4〕 教科に関する調査の平均正答率の経年変化(中学校)

教科	県・全国	H19 (悉皆)	H20 (悉皆)	H21 (悉皆)	H22* (抽出)	H24* (抽出)	H25 (悉皆)	H26 (悉皆)	H27 (悉皆)	H28 (悉皆)	H29 (悉皆)	H30 (悉皆)	教科	H31 (R元) (悉皆)	R3 (悉皆)	R4 (悉皆)	R5 (悉皆)		
国語A	県 (公立)	84	74	78	74~ 75	76~ 77	77	80	76	76	78	76	国語	73	65	68	69		
	全国 (公立)	82	74	77	75	75	76	79	76	76	77	76		73	65	69	70		
	全国との差	+2	0	+1			+1	+1	0	0	+1	0		0	0	-1	-1		
国語B	県 (公立)	73	61	75	63~ 65	63~ 65	66	49	65	66	72	61							
	全国 (公立)	72	61	75	65~ 66	63	67	51	66	67	72	61							
	全国との差	+1	0	0			-1	-2	-1	-1	0	0							
数学A	県 (公立)	73	63	63	61~ 64	61~ 64	62	67	64	61	64	65	数学	60	57	51	50		
	全国 (公立)	72	63	63	64~ 65	62	64	67	64	62	65	66		60	57	51	51		
	全国との差	+1	0	0			-2	0	0	-1	-1	-1		0	0	0	-1		
数学B	県 (公立)	62	50	57	40~ 43	47~ 50	40	58	41	44	48	46							
	全国 (公立)	61	49	57	43~ 44	49~ 50	42	60	42	44	48	47							
	全国との差	+1	+1	0			-2	-2	-1	0	0	-1							
理科	県 (公立)					50~ 52			53			66	英語	54	理科	50	英語	43	
	全国 (公立)					51			53			66		56				49	46
	全国との差								0			0		-2				+1	-3

※H22年度、H24年度調査は抽出で実施されたため、全員を対象とした調査(悉皆調査)の平均正答率が95%の確率で含まれる範囲を「○~○」と示している。

※全国との差を示すために、全国(公立)の値は四捨五入し整数値で示してある。

(イ) 分析 ◇：成果 ◆：課題

◆国語は、全国の平均正答率との差は、令和5年度は令和4年度と同値の-1である。

(表Ⅱ-4)

◆数学は、全国の平均正答率との差について、平成31年度(令和元年度)から0で推移してきたが、令和5年度は-1である。(表Ⅱ-4)

◆英語は、全国の平均正答率との差について、前回の平成31年度(令和元年度)は-2であったが、令和5年度は-3である。(表Ⅱ-4)

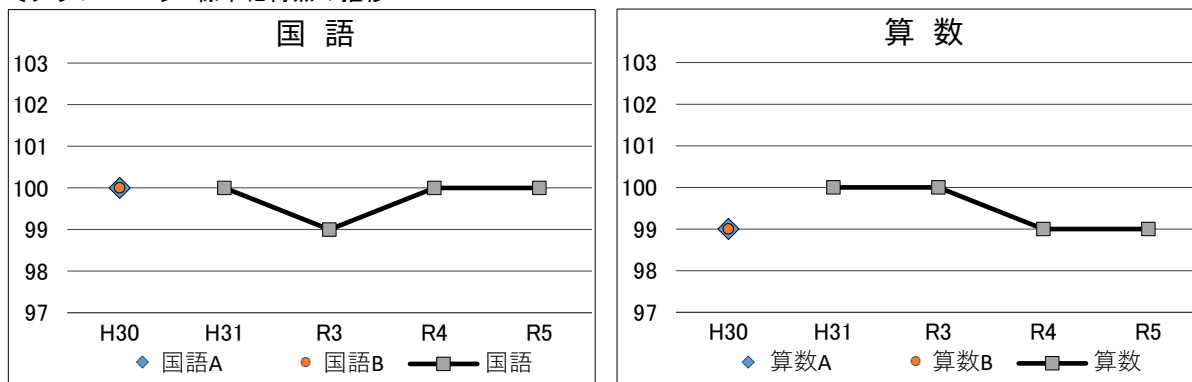
(3) 過去5回（平成30年度～令和5年度^{※1}）の調査結果の経年変化と分析 ※1 令和2年度は未実施

ア 小学校の経年変化（標準化得点^{※2}）と分析

※2 標準化得点・・・各年度の調査は問題が異なることから、平均正答率による単純な比較ができな
 いため、年度間の相対的な比較をすることが可能となるよう、各年度の全国（公
 立）の平均正答数がそれぞれ100となるように標準化した得点。

(ア) 標準化得点

〔グラフⅡ-6〕 標準化得点の推移



(イ) 分析 ◇：成果 ◆：課題

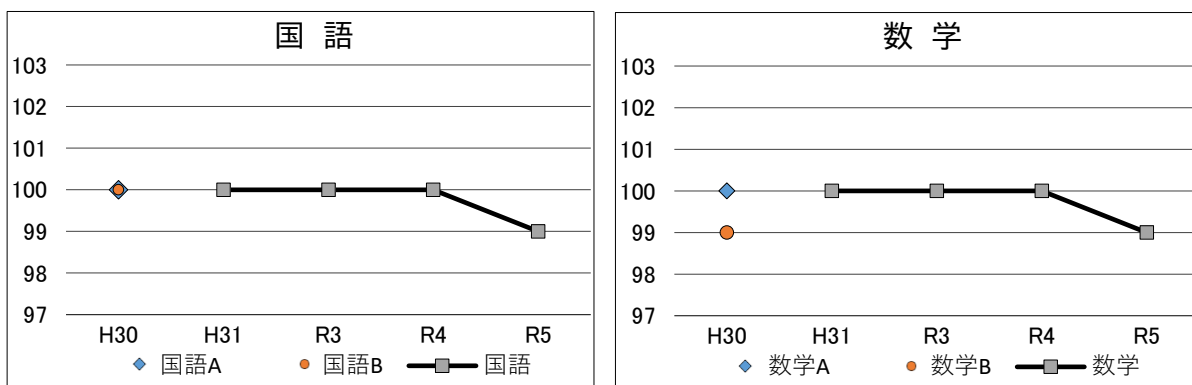
◇国語の標準化得点は、令和5年度は、令和4年度と同値で100である。(グラフⅡ-6)

◆算数の標準化得点は、令和5年度は、令和4年度と同値で99である。(グラフⅡ-6)

イ 中学校の経年変化（標準化得点^{※2}）と分析

(ア) 標準化得点

〔グラフⅡ-7〕 標準化得点の推移



(イ) 分析 ◇：成果 ◆：課題

◆国語の標準化得点は、平成30年度以降、100で推移してきたが、令和5年度は99に下がった。(グラフⅡ-7)

◆数学の標準化得点は、平成31年度以降、100で推移してきたが、令和5年度は99に下がった。(グラフⅡ-7)

◆英語の標準化得点は、令和5年度は、99であった。(※グラフなし)

(4) 過去5回（平成30年度～令和5年度^{※1}）の調査結果の経年変化と分析 ※1 令和2年度は未実施

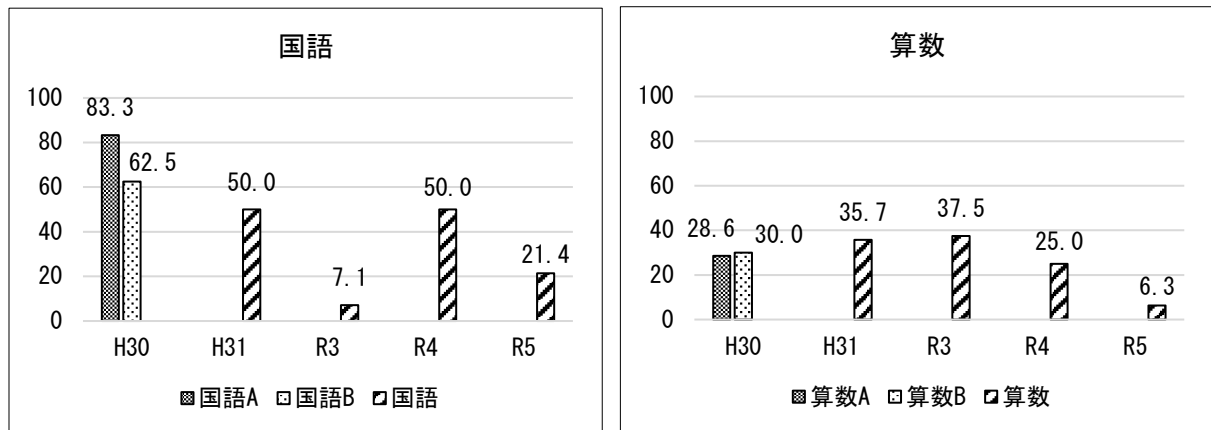
ア 小学校の経年変化（全国の平均正答率を上回った設問と無解答率）と分析

(ア) 全国の平均正答率を上回った設問数と無解答率

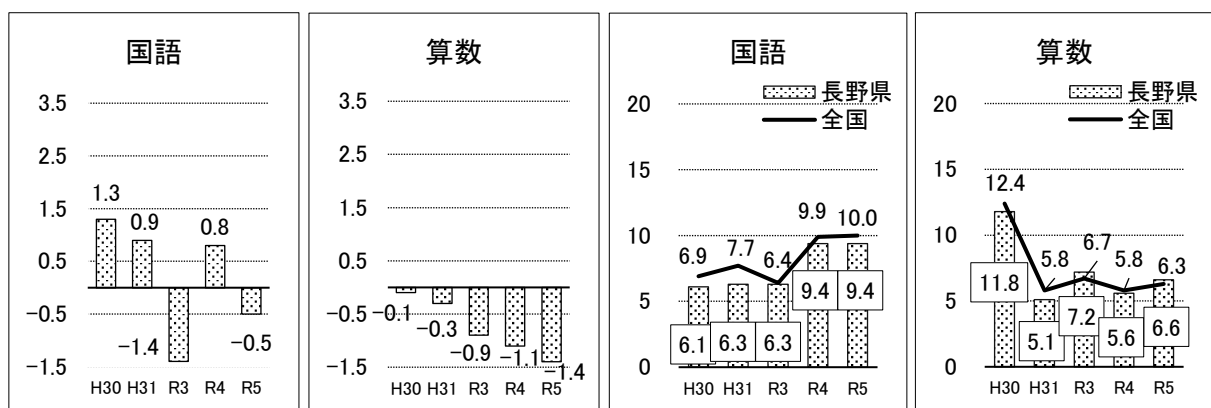
〔表Ⅱ-5〕 本県の平均正答率が全国の平均正答率を上回った設問数（同値は除く）

	国語A	国語B	算数A	算数B
平成30年度	10/12	5/8	4/14	3/10
	国語		算数	
平成31年度	7/14		5/14	
令和3年度	1/14		6/16	
令和4年度	7/14		4/16	
令和5年度	3/14		1/16	

〔グラフⅡ-8〕 本県の平均正答率が全国の平均正答率を上回った設問の割合（％）



〔グラフⅡ-9〕 記述問題の全国平均正答率との差（％）



(イ) 分析 ◇：成果 ◆：課題

- ◆国語、算数ともに、令和5年度の平均正答率が全国を上回った設問の割合は、令和4年度より減少している。(グラフⅡ-8)
- ◆国語について、令和5年度の記述問題の平均正答率は全国を下回っている。(グラフⅡ-9)
- ◆算数について、令和5年度の記述問題の平均正答率は全国を下回り、平成30年度以降、全国より低い状態が続いている。(グラフⅡ-9)

◇国語について、記述問題における平均無解答率は、令和5年度、全国平均を下回っている。

(グラフⅡ-10)

◆算数について、記述問題における平均無解答率は、令和5年度、全国平均を上回っている。

(グラフⅡ-10)

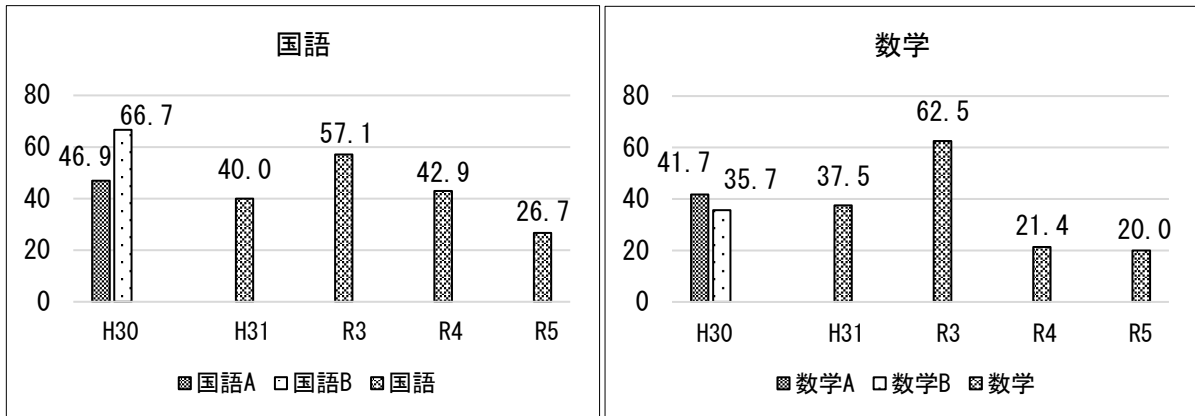
イ 中学校の経年変化（全国の平均正答率を上回った設問と無解答率）と分析

(ア) 全国の平均正答率を上回った設問と無解答率

〔表Ⅱ-6〕 本県の平均正答率が全国の平均正答率を上回った設問数（同値は除く）

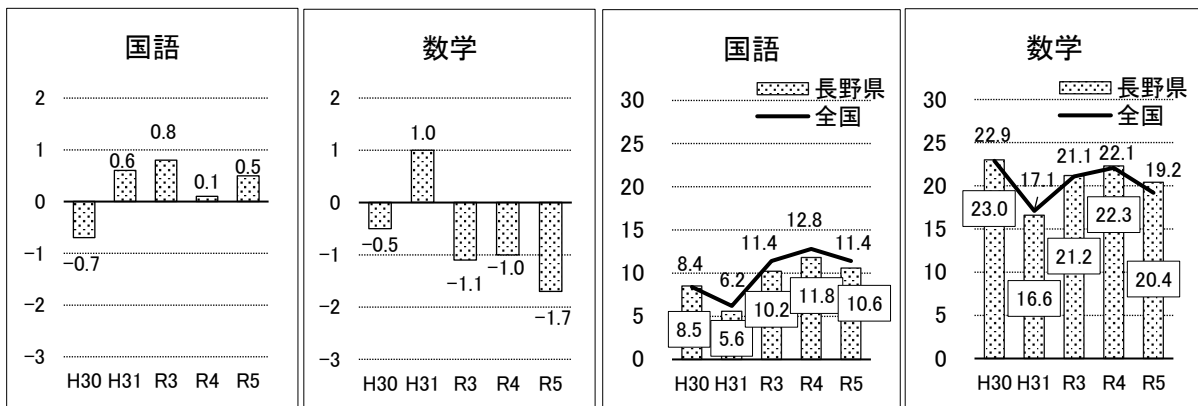
	国語A	国語B	数学A	数学B
平成30年度	15/32	6/9	15/36	5/14
	国語		数学	
平成31年度	4/10		6/16	2/21
令和3年度	8/14		10/16	
令和4年度	6/14		3/14	英語
令和5年度	4/15		3/15	2/17

〔グラフⅡ-11〕 本県の平均正答率が全国の平均正答率を上回った設問の割合（％）



〔グラフⅡ-12〕 記述問題の全国平均正答率との差（％）

〔グラフⅡ-13〕 記述問題における平均無解答率（％）



(イ) 分析 ◇：成果 ◆：課題

◆国語、数学ともに令和5年度の平均正答率が全国を上回った設問の割合は、令和4年度より減少している。(グラフⅡ-11)

◇国語について、平成 31 年度以降、記述問題の平均正答率は全国を上回っており、平均無解答率は、全国を下回っている。(グラフⅡ-12、グラフⅡ-13)

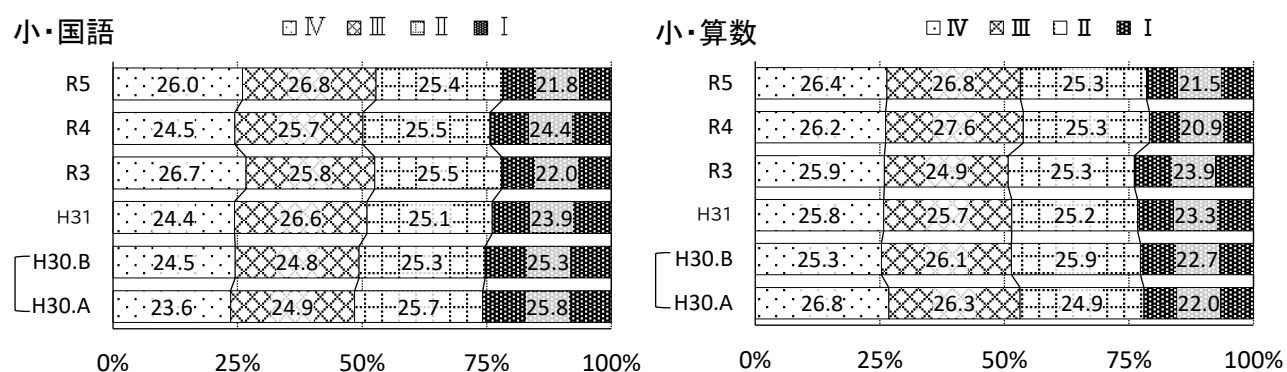
◆数学について、令和 5 年度の記述問題の平均正答率は、全国を下回っており、平均無解答率は、全国を上回っている。(グラフⅡ-12、グラフⅡ-13)

ウ 小学校の経年変化（分布に着目した経年の状況）と分析

(ア) 分布に着目した経年の状況

全国の受検者を正答数の多い順に並べ、上位から 25%ずつ 4 分割(境界を含む階級の度数を按分することで、4 等分となるよう補正)し、それぞれの区分を I（上位 25%以内）、II（25%～50%）、III（50%～75%）、IV（75%～100%）とした上で、各区分に入る長野県の児童の割合を求めた。

〔グラフⅡ-14〕 分布に着目した経年の状況



※それぞれの帯グラフの合計値は、計算の都合上、100にならない場合もある。(例：99.9、100.1等)

(イ) 分析 ◇：成果 ◆：課題

◆国語は I 層の割合が令和 4 年度よりも減少し、III 層及び IV 層の割合が令和 4 年度よりも増加したことから、上位層の割合が令和 4 年度と比べて減少し、下位層の割合が令和 4 年度よりも増加していることがわかる。(グラフⅡ-14)

◇算数は I 層の割合が令和 4 年度よりもやや増加し、II 層の割合は同値であることから、上位層の割合が令和 4 年度と比べてやや増加していることがわかる。(グラフⅡ-14)

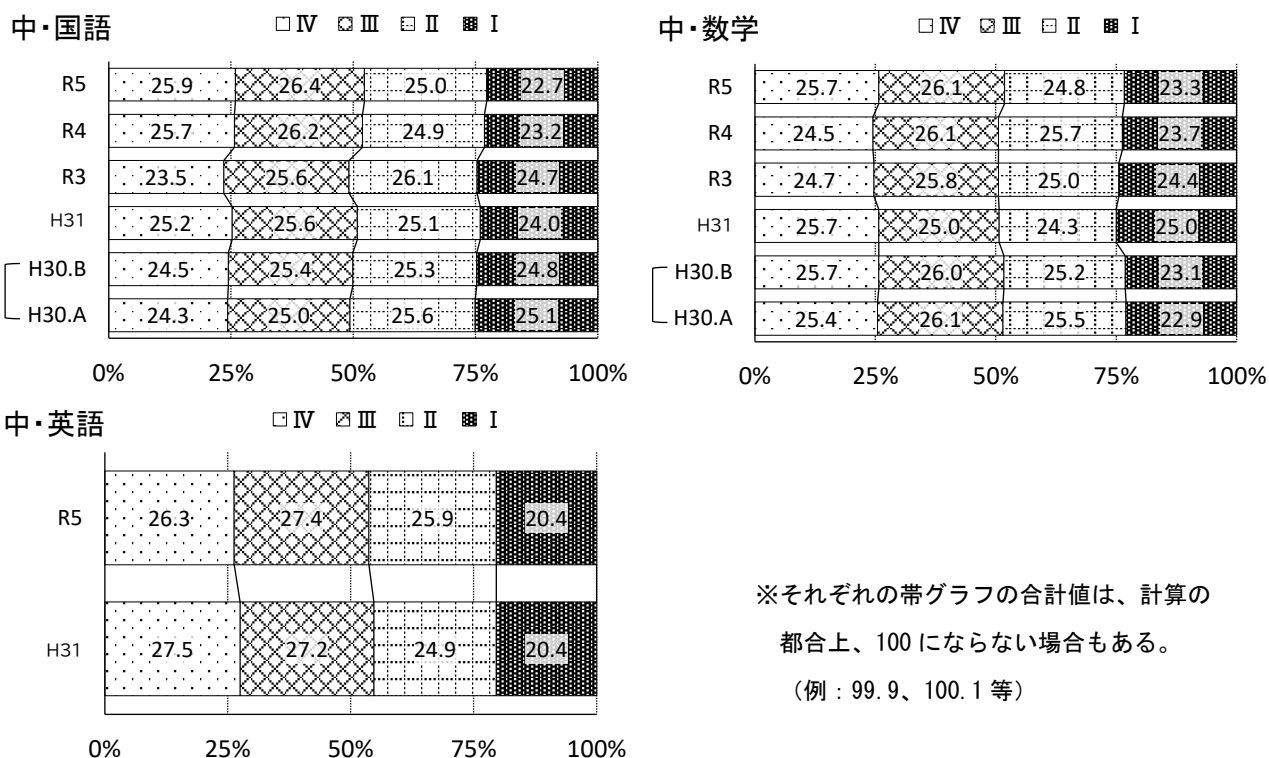
◆算数は、I 層の割合が 25%を下回り、IV 層の割合が 25%を上回っている状態が続いている。(グラフⅡ-14)

エ 中学校の経年変化（分布に着目した経年の状況）と分析

(ア) 分布に着目した経年の状況

全国の受検者を正答数の多い順に並べ、上位から 25%ずつ 4 分割(境界を含む階級の度数を按分することで、4 等分となるよう補正)し、それぞれの区分を I（上位 25%以内）、II（25%～50%）、III（50%～75%）、IV（75%～100%）とした上で、各区分に入る長野県の生徒の割合を求めた。

〔グラフⅡ-15〕 分布に着目した経年の状況



※それぞれの帯グラフの合計値は、計算の都合上、100にならない場合もある。
(例：99.9、100.1等)

(イ) 分析 ◇：成果 ◆：課題

◆国語はI層の割合が令和4年度よりもやや減少し、III層及びIV層の割合が令和4年度よりもやや増加したことから、上位層の割合が令和4年度と比べてやや減少し、下位層の割合が令和4年度よりもやや増加していることがわかる。(グラフⅡ-15)

◆数学はI層及びII層の割合が令和4年度よりも減少し、IV層が増加したことから、上位層の割合が令和4年度と比べて減少し、下位層が増加していることがわかる。

(グラフⅡ-15)

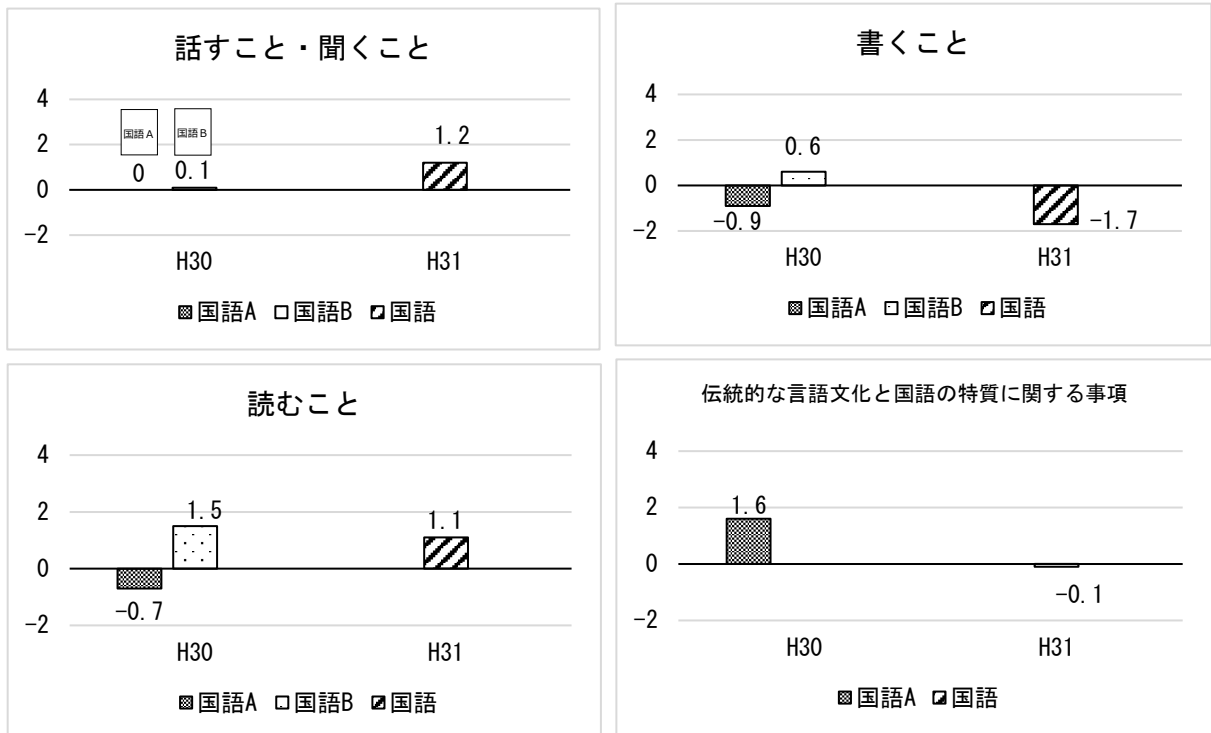
◇英語はI層の割合が平成31年度と同値で、IV層の割合が減少したことから、下位層の割合が平成31年度と比べて減少していることがわかる。(グラフⅡ-15)

オ 小学校国語の経年変化と分析

(ア) 内容(領域等)、評価の観点、問題形式ごとの経年変化の状況

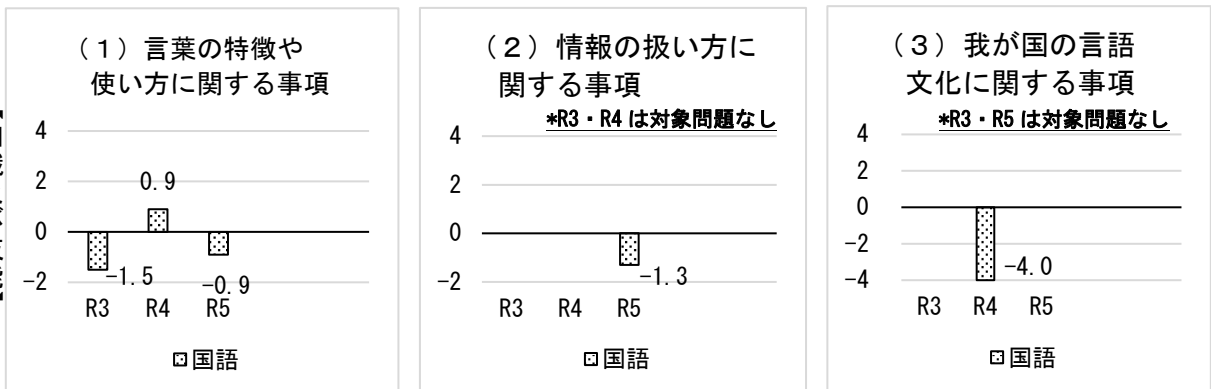
平成30年度から令和5年度までの学習指導要領の内容(領域等)、評価の観点、問題形式ごとの正答率について、全国の平均正答率と比較した。

〔グラフⅡ-16〕 学習指導要領の領域等ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差（％）（H30・31）

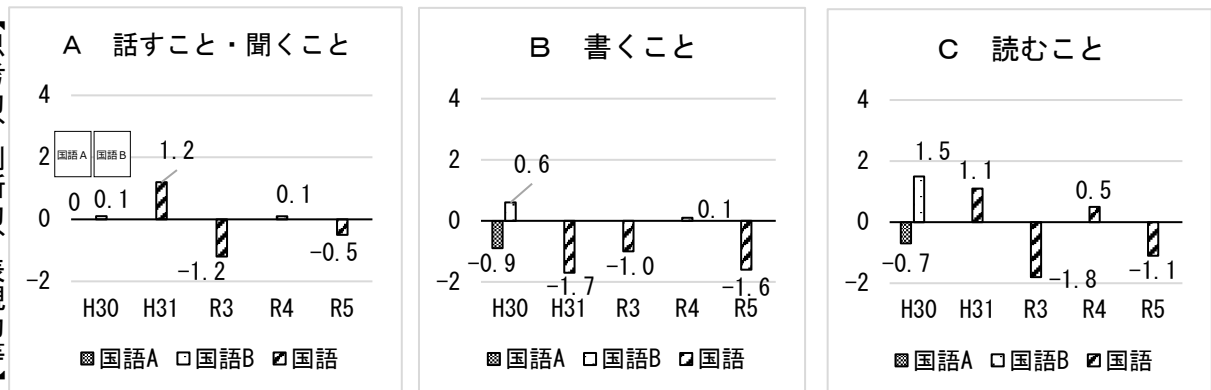


〔グラフⅡ-17〕 学習指導要領の内容ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差（％）（R3～）

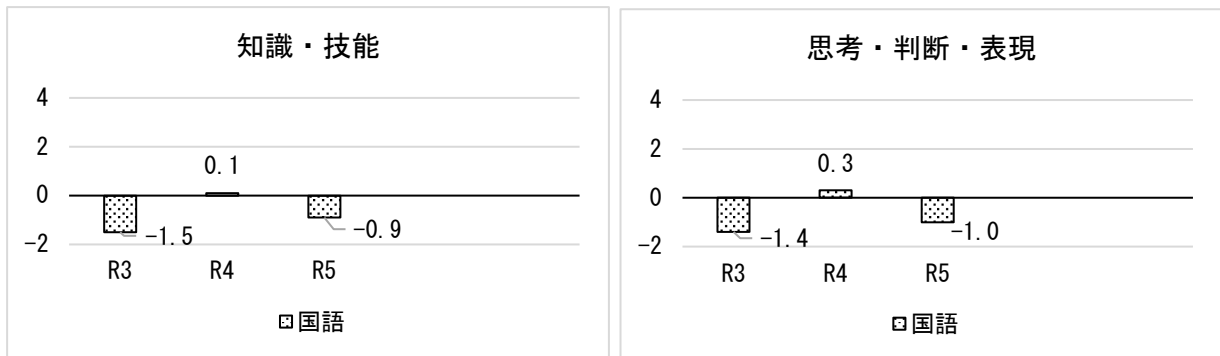
【知識及び技能】



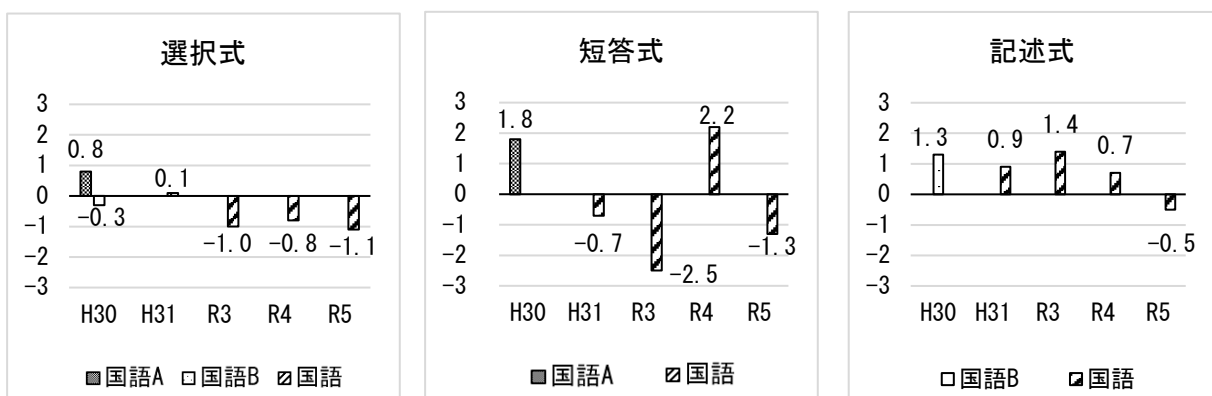
【思考力、判断力、表現力等】



〔グラフⅡ-18〕 評価の観点ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差（％）（R3～）



〔グラフⅡ-19〕 問題形式ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差（％）



(イ) 分析 ◇：成果 ◆：課題

◆言葉の特徴や使い方に関する事項の平均正答率は、全国を1ポイント程度下回っている。

(グラフⅡ-17)

◆話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと及び評価の観点の知識・技能、思考・判断・表現の平均正答率は、全国を下回っている。(グラフⅡ-17、18)

◆選択式及び短答式の平均正答率は、全国を1ポイント程度下回っている。(グラフⅡ-19)

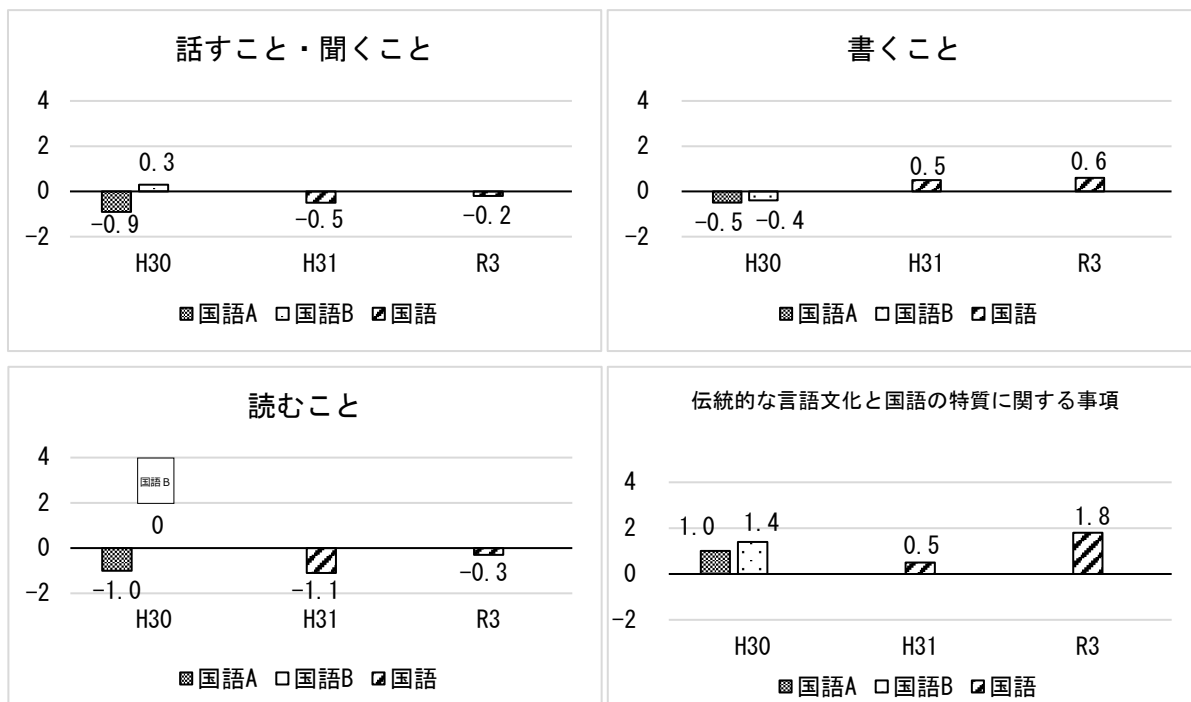
◆記述式は平成30年度以降、全国より高い状況が続いていたが、令和5年度は0.5ポイント全国を下回った。(グラフⅡ-19)

カ 中学校国語の経年変化と分析

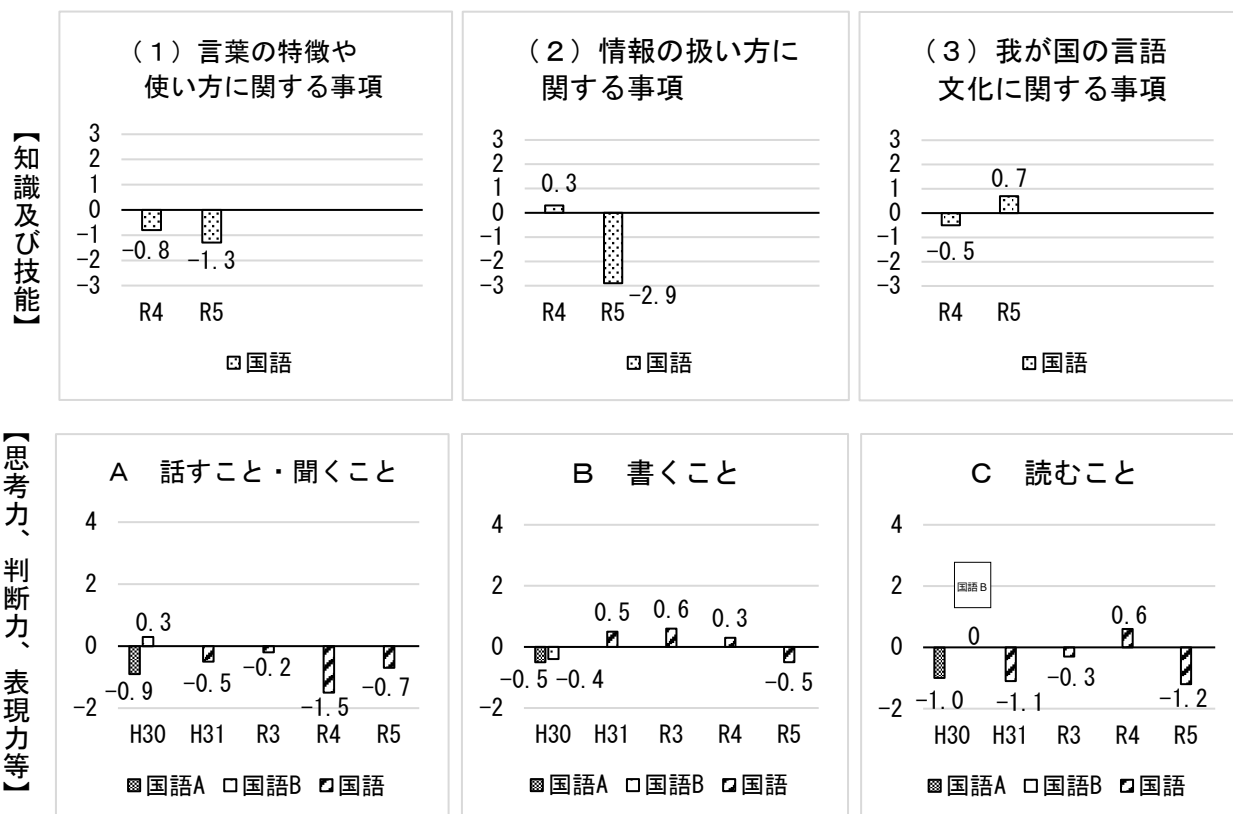
(ア) 内容（領域等）、評価の観点、問題形式ごとの経年変化の状況

小学校国語と同様に、中学校国語についても平成30年度から令和5年度までの学習指導要領の内容（領域等）、評価の観点、問題形式ごとの正答率について、全国の平均正答率と比較した。

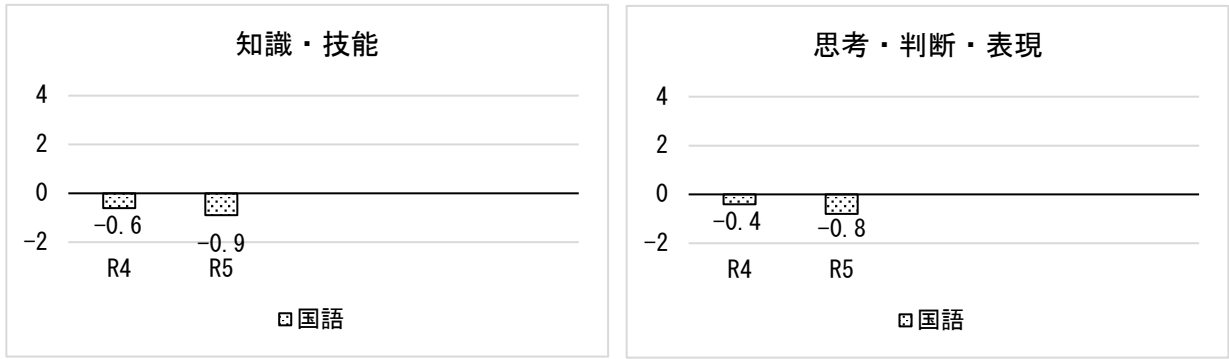
〔グラフⅡ-20〕 学習指導要領の領域等ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差（%）（H29～R3）



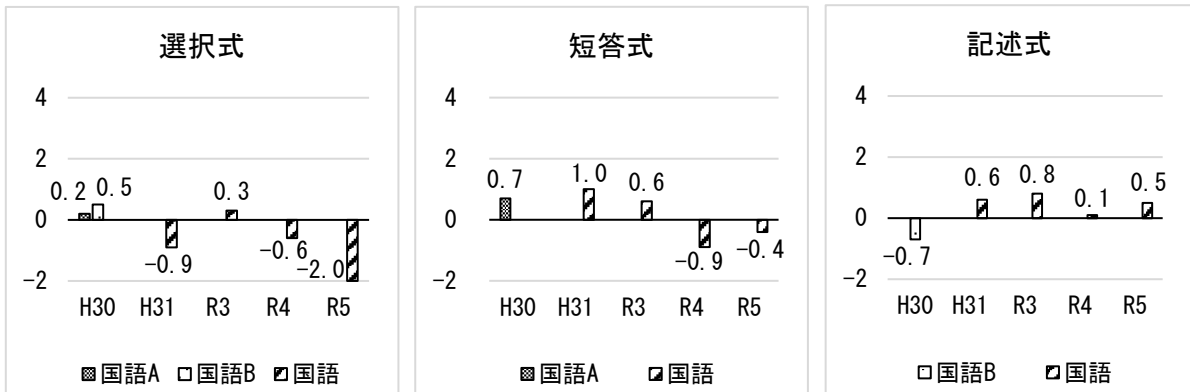
〔グラフⅡ-21〕 学習指導要領の内容ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差（%）（R4～）



[グラフⅡ-22] 評価の観点ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差(%) (R4~)



[グラフⅡ-23] 問題形式ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差(%)



(イ) 分析 ◇ : 成果 ◆ : 課題

◇我が国の言語文化に関する事項の平均正答率は、全国を0.7ポイント上回っている。

(グラフⅡ-21)

◆言葉の特徴や使い方に関する事項及び情報の扱い方に関する事項の平均正答率は、全国を下回っている。(グラフⅡ-21)

◆小学校国語同様、話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと及び評価の観点の知識・技能、思考・判断・表現の平均正答率は、全国を下回っている。(グラフⅡ-21・22)

◇記述式の平均正答率は、平成31年度から全国を上回る状況が続いている。(グラフⅡ-23)

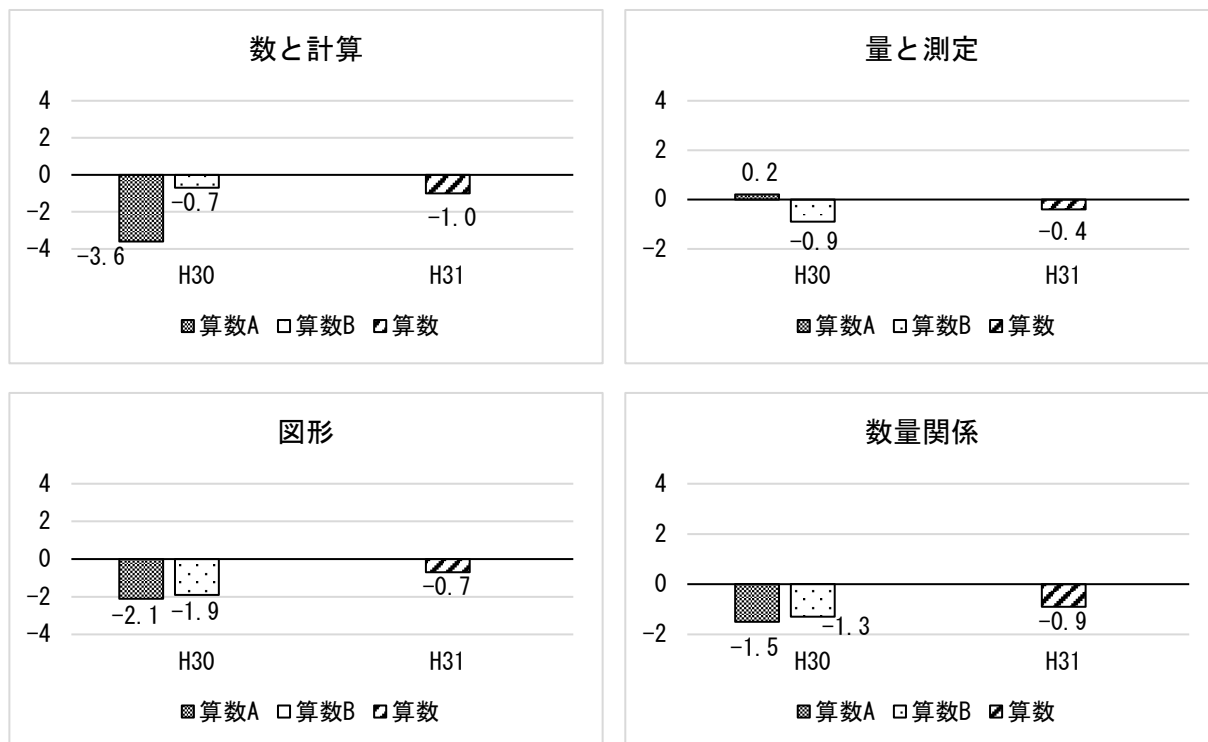
◆選択式及び短答式の平均正答率は、全国を下回っている。(グラフⅡ-23)

キ 小学校算数の経年変化と分析

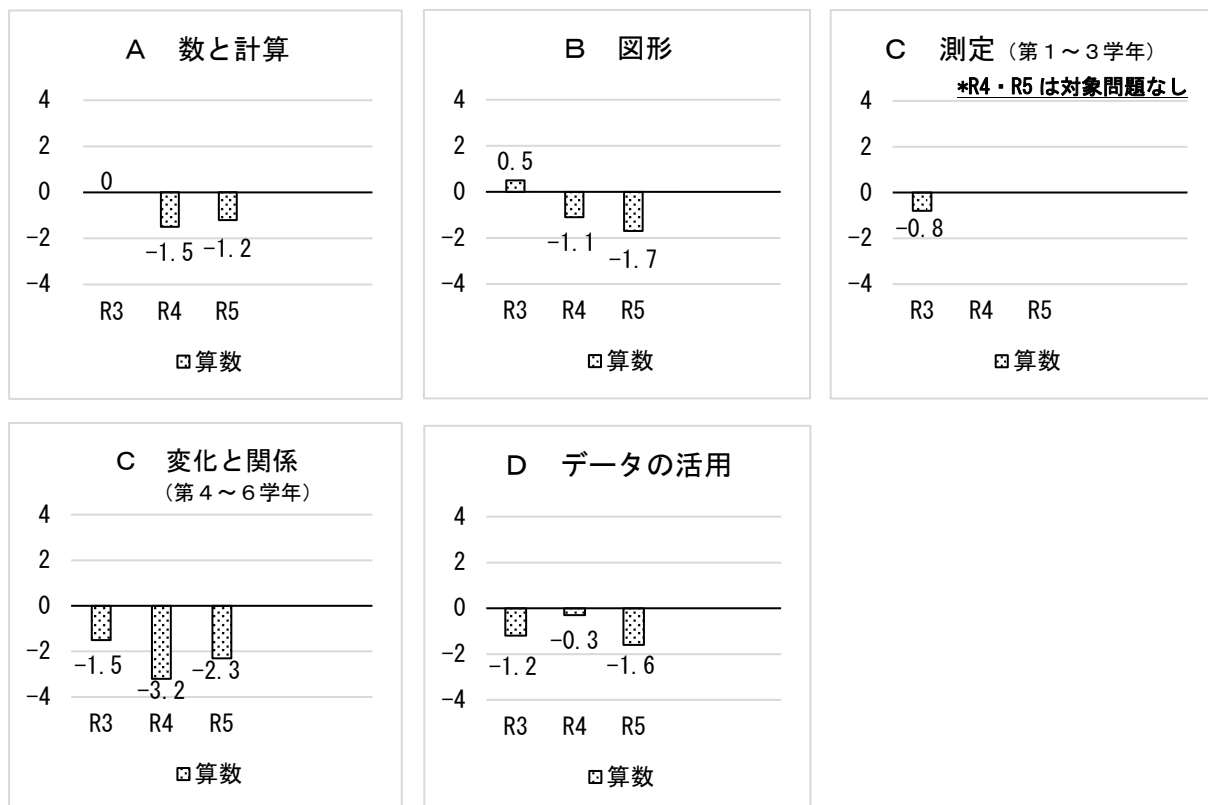
(ア) 領域、評価の観点、問題形式ごとの経年変化の状況

平成30年度から令和5年度までの学習指導要領の領域、評価の観点、問題形式ごとの正答率について、全国の平均正答率と比較した。

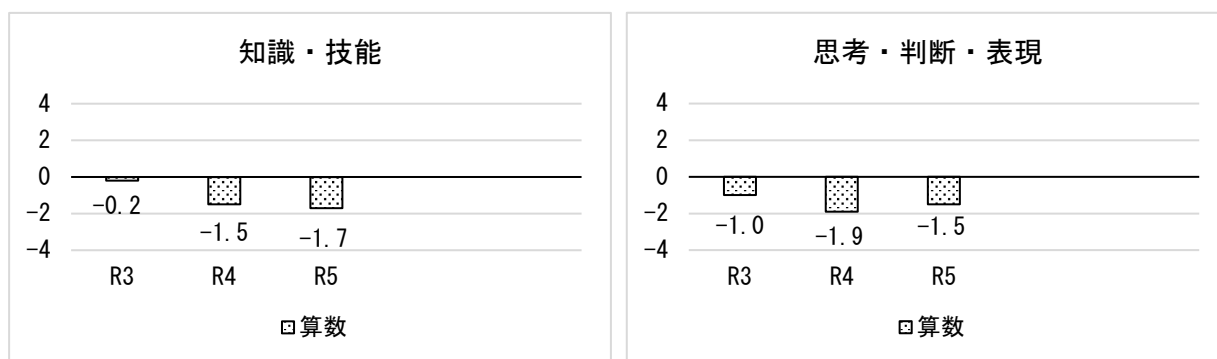
〔グラフⅡ-24〕 学習指導要領の領域ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差(%) (H30・H31)



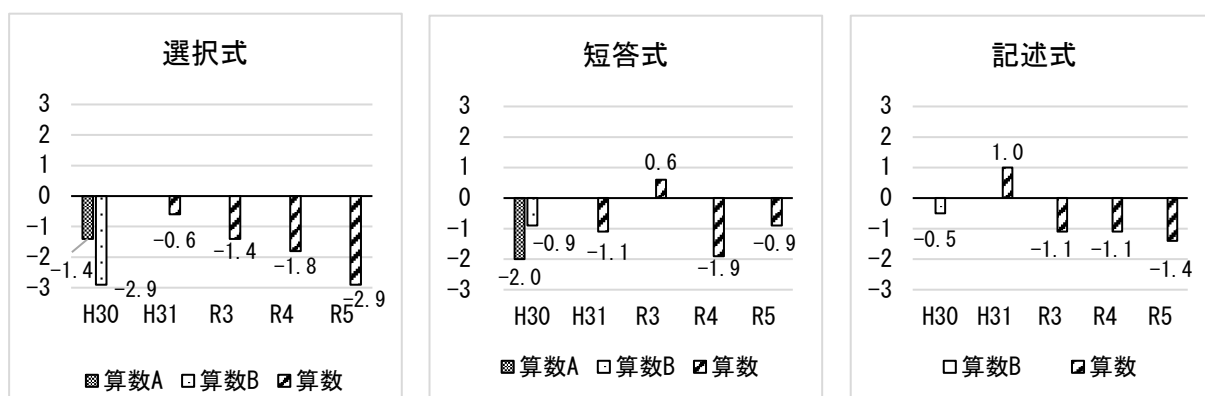
〔グラフⅡ-25〕 学習指導要領の領域ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差(%) (R3～)



〔グラフⅡ-26〕 評価の観点ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差（％）（R3～）



〔グラフⅡ-27〕 問題形式ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差（％）



(イ) 分析 ◇：成果 ◆：課題

◆全ての領域において、平均正答率は全国を下回っている。(グラフⅡ-25)

◆評価の観点の知識・技能、思考・判断・表現の平均正答率は、全国を下回っている。

(グラフⅡ-26)

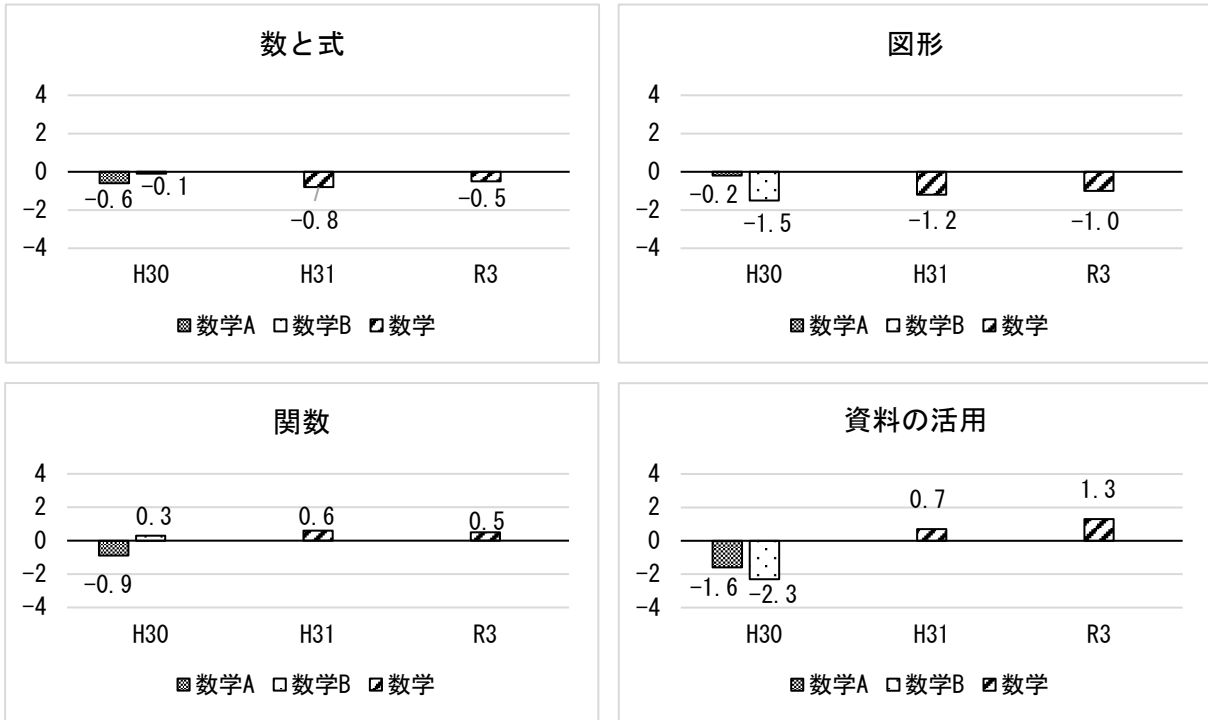
◆問題形式ごとの平均正答率は、全て全国を下回っている。特に選択式について、全国との差が平成31年度以降、年々増加している。(グラフⅡ-27)

ク 中学校数学の経年変化と分析

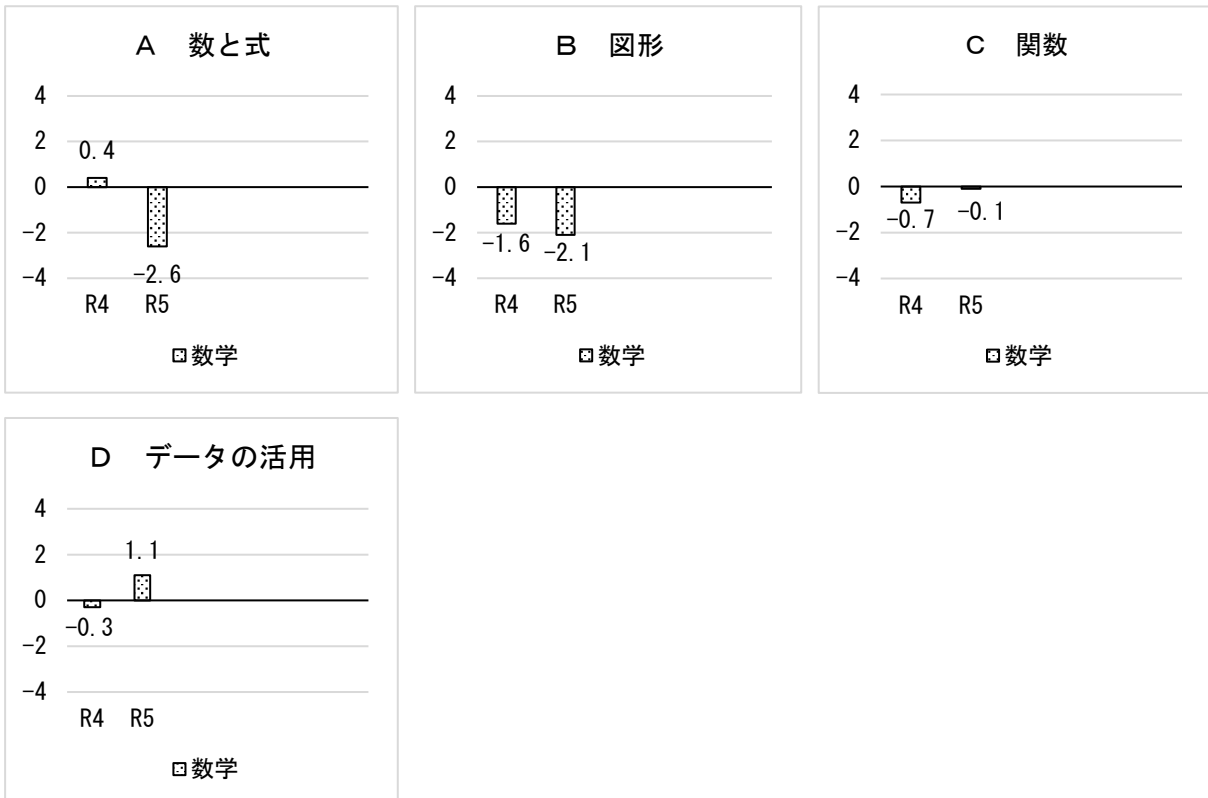
(ア) 領域、評価の観点、問題形式ごとの経年変化の状況

算数と同様に、数学についても、領域、評価の観点、問題形式ごとの正答率について、全国の平均正答率と比較した。

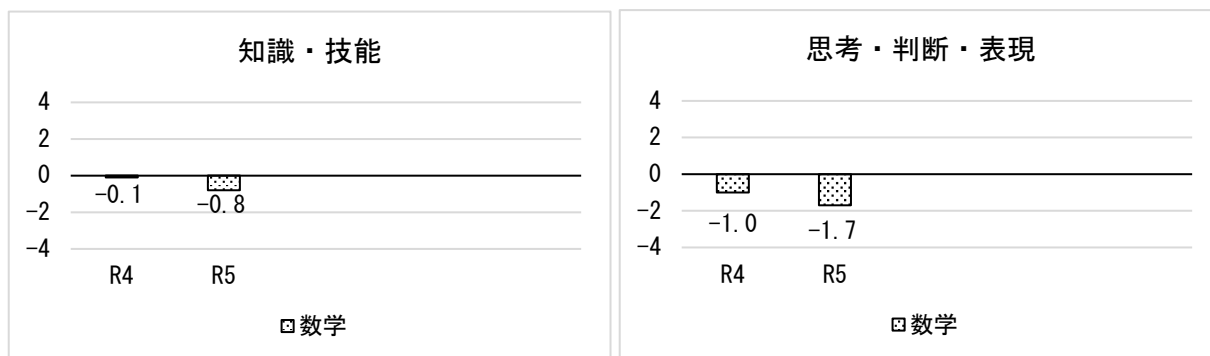
〔グラフⅡ-28〕 領域ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差(%) (H30~R3)



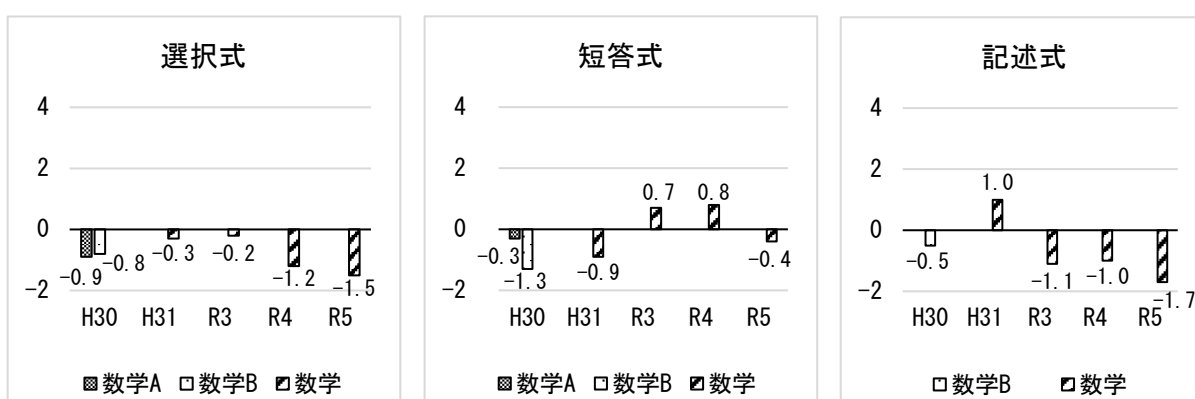
〔グラフⅡ-29〕 領域ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差(%) (R4~)



〔グラフⅡ-30〕 評価の観点ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差（%）（R4～）



〔グラフⅡ-31〕 問題形式ごとの本県の平均正答率と全国の平均正答率との差（%）



(イ) 分析 ◇：成果 ◆：課題

◇データの活用の領域の平均正答率は、令和4年度は全国を下回っていたが、令和5年度は全国を上回っている。(グラフⅡ-29)

◆数と式、図形、関数の領域の平均正答率は、全国を下回っている。(グラフⅡ-29)

◆小学校算数同様、評価の観点の知識・技能、思考・判断・表現の平均正答率は、全国を下回っている。(グラフⅡ-30)

◇短答式の平均正答率は、令和3年度、令和4年度と全国を上回っていたが、令和5年度は全国を下回っている。(グラフⅡ-31)

2 質問紙調査の結果と分析

(1) 令和5年度 質問紙調査の結果と分析

児童生徒を対象とする質問紙調査と、学校（教師）を対象とする質問紙調査の項目を分類^(※1)し、それぞれを「[児童生徒]」、「[学校運営]」に整理し、領域ごとに全国を100としてスコア化^(※2)した。

「[児童生徒]」、「[学校運営]」の領域は次のとおりである。

「[児童生徒]」 児童：5領域 生徒：6領域

- 学習に対する興味・関心
 - ・国語への関心等
 - ・算数(数学)への関心等
 - ・英語への関心等 *生徒のみ
- 規範意識・自己有用感
 - ・規範意識
 - ・自己有用感
- 生活習慣・学習習慣
 - ・生活習慣・学習習慣

「[学校運営]」 小学校：7領域 中学校：8領域

- 教科指導
 - ・国語科の指導方法
 - ・算数(数学)科の指導方法
 - ・英語科の指導方法 *中学校のみ
- 授業改善・生徒指導
 - ・授業改善
 - ・生徒指導
- 学校経営
 - ・学校運営
 - ・教職員の資質能力の向上
 - ・家庭や地域との連携等

※1：各領域に対応する質問項目は、文部科学省が結果チャートを作成する際に用いた分類に沿う。

※2：該当する領域に含まれる個別の質問項目の回答結果の割合を基に基礎値を算出し、領域ごとの平均値を算出する。全国の平均値に対する長野県の平均値を各領域のスコアとして、事務局でスコアを算出した。

ア 小学校調査

(ア) 結果

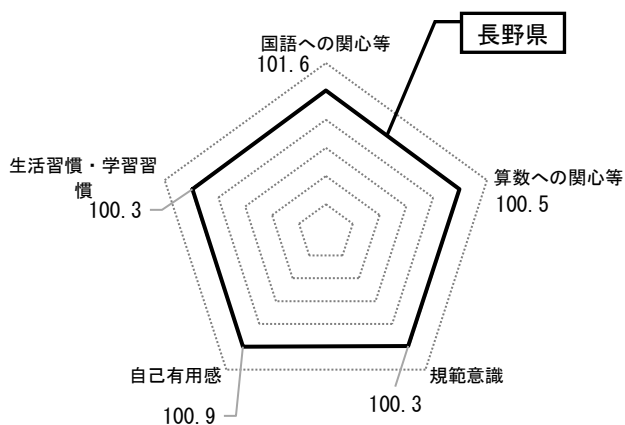
〔表Ⅱ-7〕 〔児童〕のスコア（小学校）

領域名		スコア
学習に対する 興味・関心	国語への関心等	101.6
	算数への関心等	100.5
規範意識・ 自己有用感	規範意識	100.3
	自己有用感	100.9
生活習慣・ 学習習慣	生活習慣・学習習慣	100.3

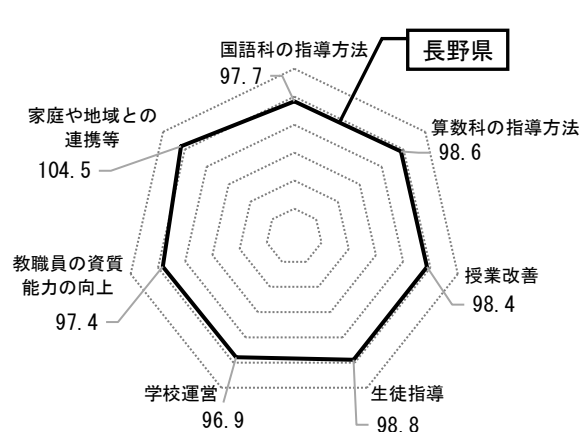
〔表Ⅱ-8〕 〔学校運営〕のスコア（小学校）

領域名		スコア
教科指導	国語科の指導方法	97.7
	算数科の指導方法	98.6
授業改善・ 生徒指導	授業改善	98.4
	生徒指導	98.8
学校経営	学校運営	96.9
	教職員の資質能力の向上	97.4
	家庭や地域との連携等	104.5

〔グラフⅡ-32〕 〔児童〕のスコア（小学校）



〔グラフⅡ-33〕 〔学校運営〕のスコア（小学校）



(イ) 分析 ◇ : 成果 ◆ : 課題

◇ 〔児童〕では、いずれの領域においても全国を上回っている。(表Ⅱ-7、グラフⅡ-32)

◇ 〔学校運営〕では、家庭や地域との連携等が4.5ポイント全国平均を上回っている。

(表Ⅱ-8、グラフⅡ-33)

◆ 〔学校運営〕では、令和4年度同様、国語科及び数学科の指導方法、授業改善、生徒指導、学校運営、教職員の資質能力の向上が全国平均を下回っている。

(表Ⅱ-8、グラフⅡ-33)

イ 中学校調査

(ア) 結果

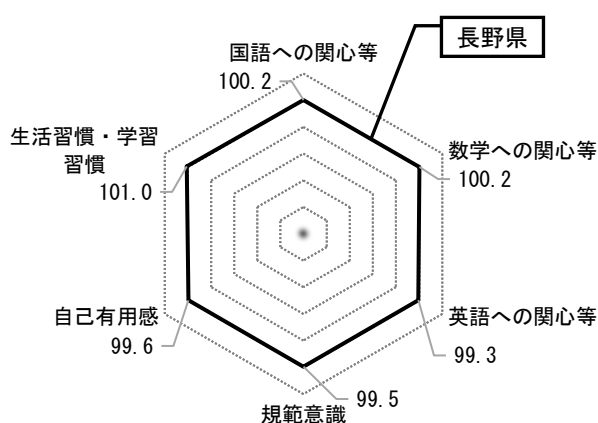
〔表Ⅱ-9〕 [生徒] のスコア (中学校)

領域名		スコア
学習に対する 興味・関心	国語への関心等	100.2
	数学への関心等	100.2
	英語への関心等	99.3
規範意識・ 自己有用感	規範意識	99.5
	自己有用感	99.6
生活習慣・ 学習習慣	生活習慣・学習習慣	101.0

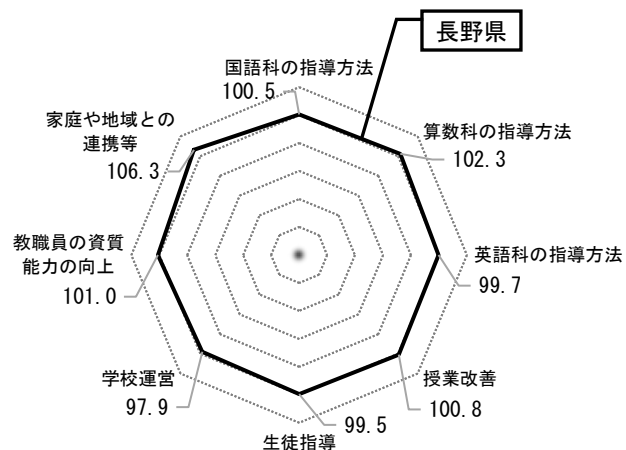
〔表Ⅱ-10〕 [学校運営] のスコア (中学校)

領域名		スコア
教科指導	国語科の指導方法	100.5
	算数科の指導方法	102.3
	英語科の指導方法	99.7
授業改善・ 生徒指導	授業改善	100.8
	生徒指導	99.5
学校経営	学校運営	97.9
	教職員の資質能力の向上	101.0
	家庭や地域との連携等	106.3

〔グラフⅡ-34〕 [生徒] のスコア (中学校)



〔グラフⅡ-35〕 [学校運営] のスコア (中学校)



※全国を100とする

(イ) 分析 ◇: 成果 ◆: 課題

◇ [生徒] では、国語への関心等、数学への関心等、生活習慣・学習習慣で全国を上回っている。(表Ⅱ-9、グラフⅡ-34)

◆ [生徒] では、英語への関心等、規範意識、自己有用感で、いずれも1ポイント未満、全国を下回っている。(表Ⅱ-9、グラフⅡ-34)

◇ [学校運営] では、特に家庭や地域との連携等が高く、全国を6.3ポイント上回っている。(表Ⅱ-10、グラフⅡ-35)

◆ [学校運営] では、特に学校運営が低く、2.1ポイント全国を下回っている。

(表Ⅱ-10、グラフⅡ-35)

(2) 過去3回（令和3年度～令和5年度）の調査結果の経年変化と分析

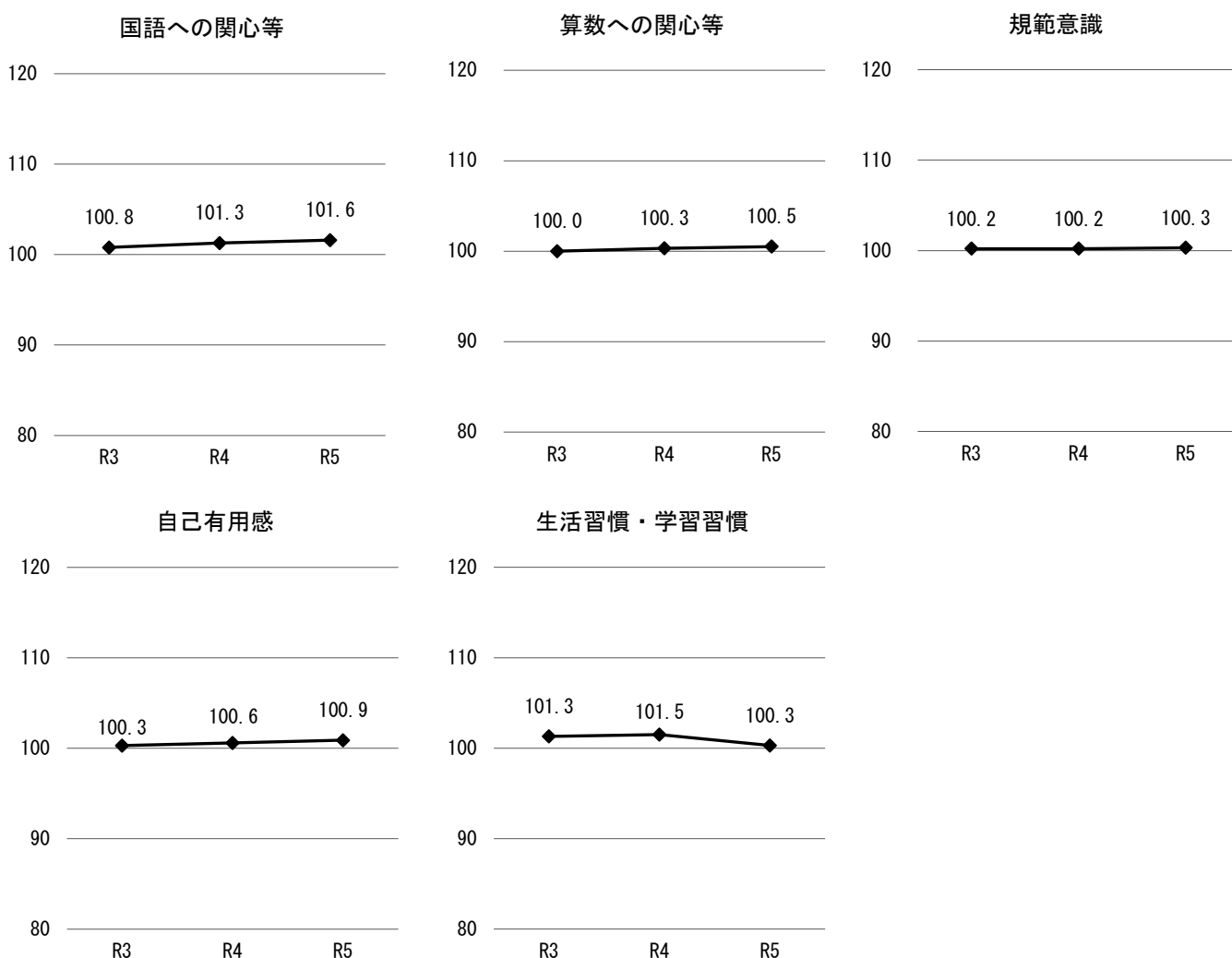
ア 小学校調査

(ア) 経年変化

〔表Ⅱ-11〕 〔児童〕のスコアの経年変化

領域名		R3	R4	R5
学習に対する 興味・関心	国語への関心等	100.8	101.3	101.6
	算数への関心等	100.0	100.3	100.5
規範意識・ 自己有用感	規範意識	100.2	100.2	100.3
	自己有用感	100.3	100.6	100.9
生活習慣・学習習慣	生活習慣・学習習慣	101.3	101.5	100.3

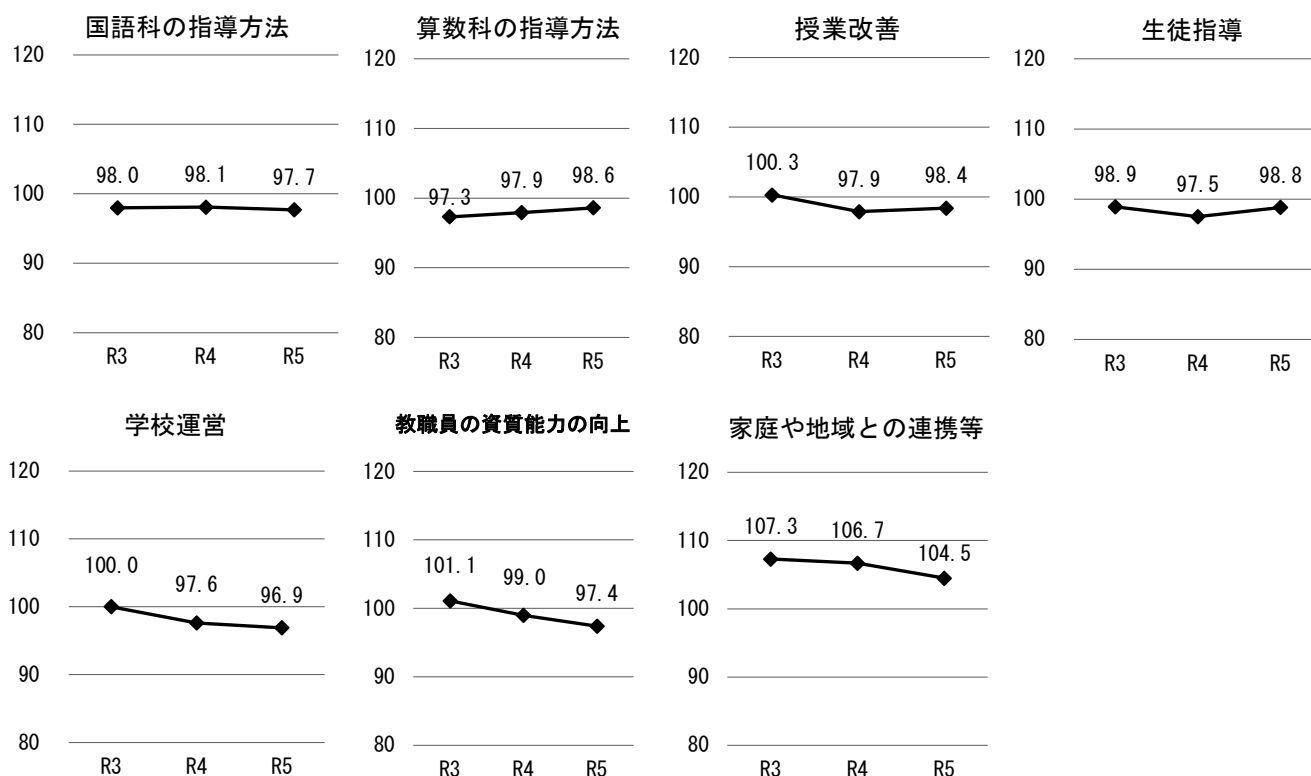
〔グラフⅡ-36〕 〔児童〕のスコアの経年変化



〔表Ⅱ-12〕 〔学校運営〕のスコアの経年変化

領域名		R3	R4	R5
教科指導	国語科の指導方法	98.0	98.1	97.7
	算数科の指導方法	97.3	97.9	98.6
授業改善・生徒指導	授業改善	100.3	97.9	98.4
	生徒指導	98.9	97.5	98.8
学校経営	学校運営	100.0	97.6	96.9
	教職員の資質能力の向上	101.1	99.0	97.4
	家庭や地域との連携等	107.3	106.7	104.5

〔グラフⅡ-37〕 〔学校運営〕のスコアの経年変化



(イ) 分析 ◇ : 成果 ◆ : 課題

◇ [児童] では、学習習慣・生活習慣以外は、令和3年度から増加している。

(表Ⅱ-11、グラフⅡ-36)

◇ [学校運営] では、算数科の指導方法が全国より下回っているものの、令和3年度から少しずつ上昇している。(表Ⅱ-12、グラフⅡ-37)

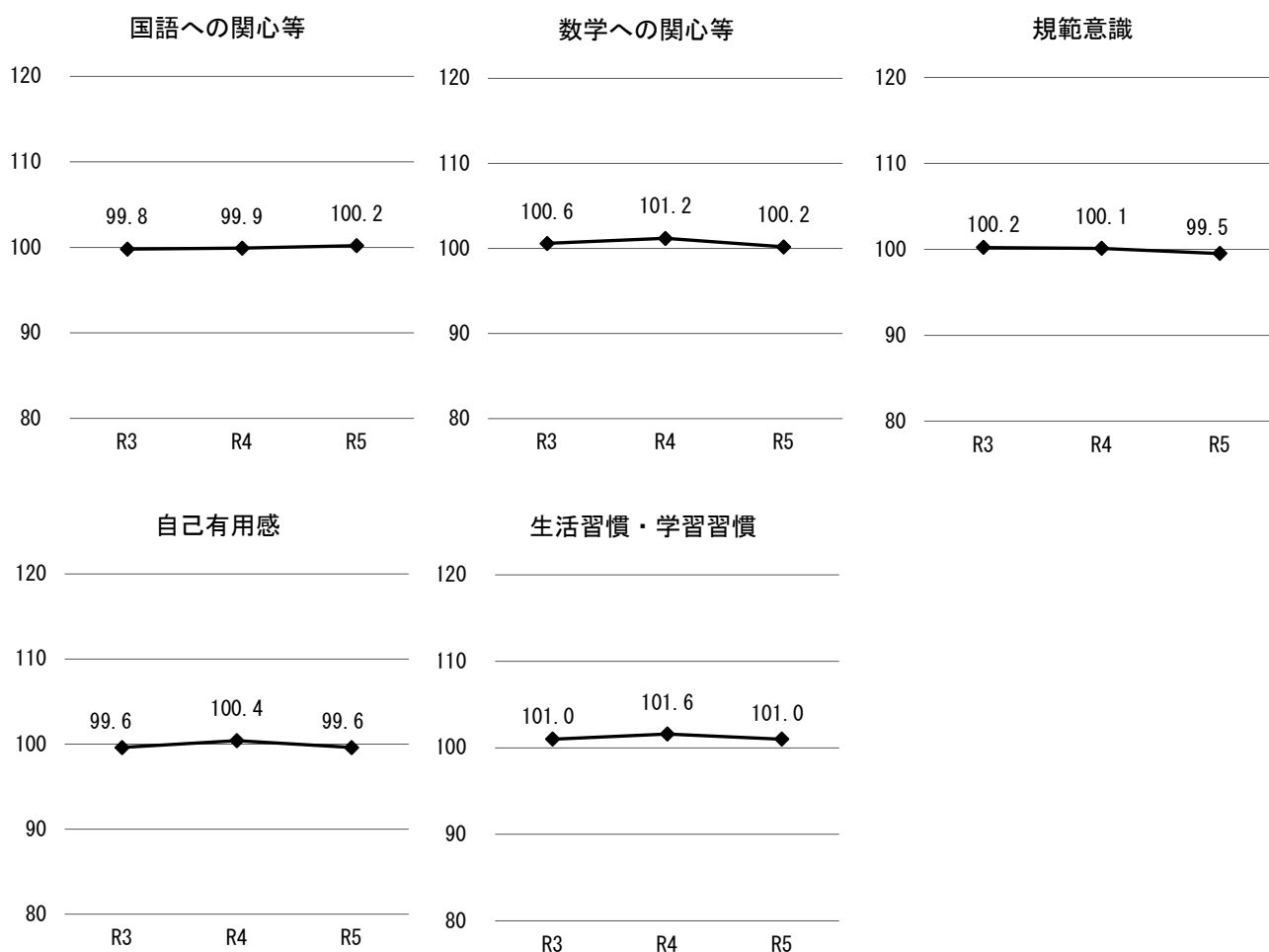
◆ [学校運営] では、学校運営、教職員の資質能力の向上が令和3年度から減少し、全国を下回っている。(表Ⅱ-12、グラフⅡ-37)

イ 中学校調査
 (ア) 経年変化

〔表Ⅱ-13〕 [生徒] のスコアの経年変化

領域名		R3	R4	R5
学習に対する 興味・関心	国語への関心等	99.8	99.9	100.2
	数学への関心等	100.6	101.2	100.2
	英語への関心等		102.5	99.3
規範意識・ 自己有用感	規範意識	100.2	100.1	99.5
	自己有用感	99.6	100.4	99.6
生活習慣・学習習慣	生活習慣・学習習慣	101.0	101.6	101.0

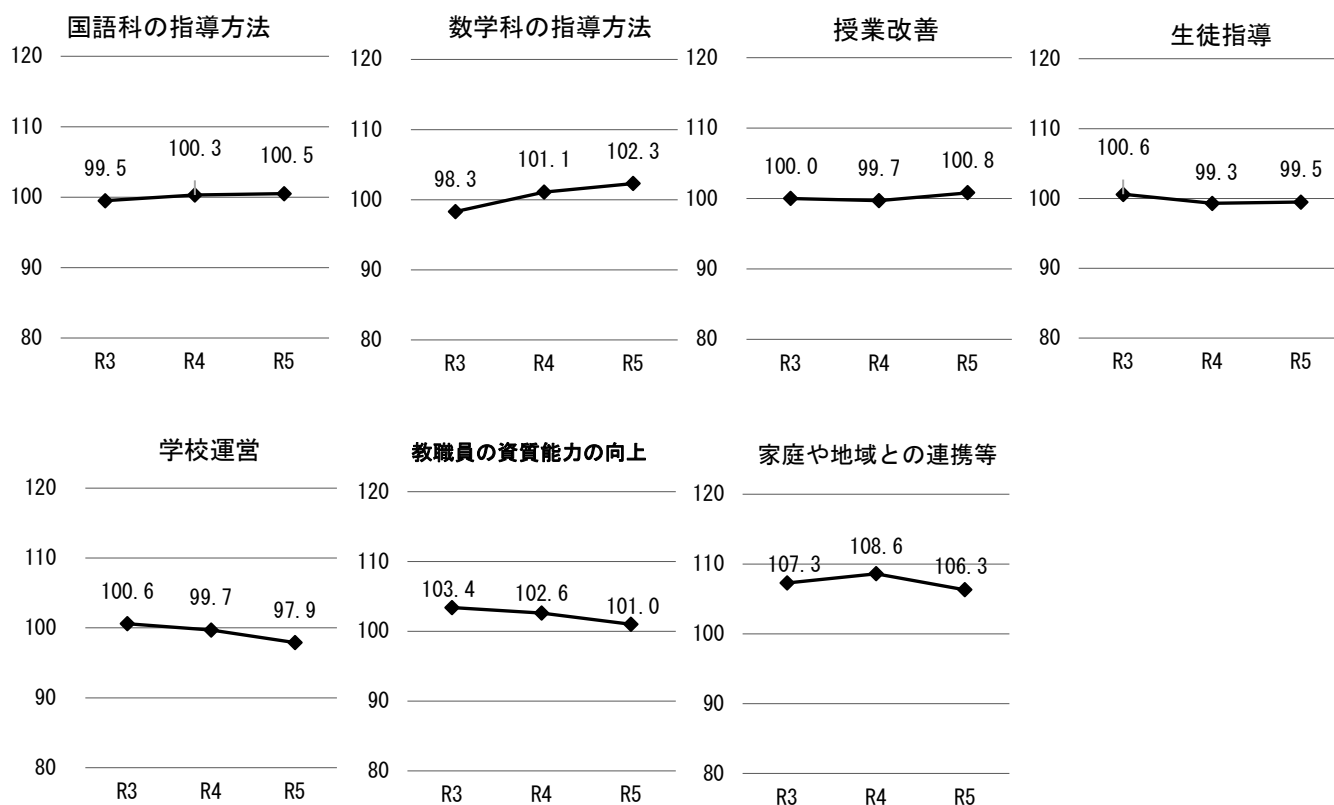
〔グラフⅡ-38〕 [生徒] のスコアの経年変化



〔表Ⅱ-14〕 〔学校運営〕のスコアの経年変化

領域名		R3	R4	R5
教科指導	国語科の指導方法	99.5	100.3	100.5
	数学科の指導方法	98.3	101.1	102.3
	英語科の指導方法			99.7
授業改善・生徒指導	授業改善	100.0	99.7	100.8
	生徒指導	100.6	99.3	99.5
学校経営	学校運営	100.6	99.7	97.9
	教職員の資質能力の向上	103.4	102.6	101.0
	家庭や地域との連携等	107.3	108.6	106.3

〔グラフⅡ-39〕 〔学校運営〕のスコアの経年変化



(イ) 分析 ◇ : 成果 ◆ : 課題

◇ [生徒] のスコアは、国語への関心等、数学への関心等、生活習慣・学習習慣で全国を上回っている。特に、国語への関心等は令和3年度以降上昇傾向にある。

(表Ⅱ-13、グラフⅡ-38)

◇ [学校運営] の家庭や地域との連携等は、令和3年度から継続して全国を6ポイント以上上回っている。(表Ⅱ-14、グラフⅡ-39)

◆ [学校運営] では、学校運営が令和3年以降下降し、全国を下回っている。

(表Ⅱ-14、グラフⅡ-39)

Ⅲ 全国の分析との比較

今年度の全国学力・学習状況調査の結果は、国立教育政策研究所のウェブページに掲載されている。このうち、「令和5年度全国学力・学習状況調査の結果」で取り上げられている項目と関連させて、長野県の結果をまとめた。

〔調査概要〕

調査実施日 令和5年4月18日（火）

調査事項 ○児童生徒に対する調査

- ・ 教科に関する調査（国語、算数・数学、英語（中学校））
- ・ 質問紙調査（児童生徒質問紙調査）
- ※児童生徒質問紙調査は、一部の学校でオンライン実施。

○学校に対する調査

- ・ 質問紙調査（学校質問紙調査）

調査対象及び集計対象児童生徒・学校数

	小学校		中学校	
	児童数	学校数	生徒数	学校数
	4月18日(火)に調査を実施した児童数	4月18日(火)に調査を実施した学校数	4月18日(火)に調査を実施した生徒数	4月18日(火)に調査を実施した学校数
長野県(公立)	15,800人	353校	15,277人	185校
全 国(公立)	964,350人	18,619校	893,528人	9,339校

※調査を実施した児童生徒数は、回収した解答用紙が最も多かった教科の解答用紙の枚数で算出。

〔教科の調査結果〕

長野県（公立）の平均正答数・平均正答率 [上段]：平均正答数／設定問題数 [下段]：平均正答率

校種	年度 教科	令和5年度		年度 教科	令和4年度（英語 平成31年度）	
		長野県	全国		長野県	全国
小学校	国語	9.3／14問 66%	9.4／14問 67.2%	国語	9.2／14問 66%	9.2／14問 65.6%
	算数	9.7／16問 61%	10.0／16問 62.5%	算数	9.8／16問 62%	10.1／16問 63.2%
中学校	国語	10.3／15問 69%	10.5／15問 69.8%	国語	9.6／14問 68%	9.7／14問 69.0%
	数学	7.5／15問 50%	7.6／15問 51.0%	数学	7.1／14問 51%	7.2／14問 51.4%
	英語	7.3／17問 43%	7.7／17問 45.6%	英語	11.3／21問 54%	11.8／21問 56.0%

※文部科学省において、平均正答率の微少な差異は実質的な学力面の違いを示すものではないため、都道府県の結果は小数点以下を四捨五入した整数値としている。

※中学校英語の調査結果は、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の合計を集計。CBTで行われた「話すこと」調査は含まれない。

(注) □…全国の平均正答率を上回る主な設問

■…全国の平均正答率を下回る主な設問

1 教科に関する調査結果

小学校国語

□目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる

寺田さんと山本さんが、どのような思いでボランティアを続けているのかについて、分かったことをまとめて書く

【大問3 設問二】70.9%(全国比 +0.7)

□送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる

【川村さんの文章】の下線部イを、送り仮名に気を付けて書き直したものとして適切なものを選択する (くらべて)

【大問1 設問三(2)イ】93.6%(全国比 +0.5)

□文章の種類とその特徴について理解しているかどうかをみる

【川村さんの文章】の特徴の説明として適切なものを選択する

【大問1 設問四】80.2%(全国比 +0.4)

■目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる

【相田さんのメモ】の空欄に当てはまる内容として適切なものを選択する

【大問2 設問二】64.5%(全国比 -2.9)

■日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる

敬語の使い方をまとめた【谷さんのノートの一部】の空欄に入る内容として適切なものを選択する

【大問3 設問三】55.2%(全国比 -2.4)

■学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる

【川村さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す (いがい)

【大問1 設問三(1)ア】50.6%(全国比 -2.2)

中学校国語

□古典の原文と現代語の文章とを対応させて内容を捉えることができるかどうかをみる

原文の中の語句に対応する言葉を現代語で書かれた文章から抜き出す (いと)

【大問4 設問二】76.2%(全国比 +2.1)

□自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる

『判じ絵』の解説の面白さ」と見出しを付けた部分に具体例として示す「判じ絵」を選択し、その解説の仕方を書く

【大問3 設問四】73.9%(全国比 +1.8)

□文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる

現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く

【大問4 設問三】51.1%(全国比 +1.1)

■観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができるかどうかをみる

二つの文章に共通する表現の効果を説明したものとして適切なものを選択する

【大問2 設問二】58.9%(全国比 -4.1)

■意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる

インターネットの記事を読んで気付いた点として適切なものを選択する

【大問1 設問二】61.2%(全国比 -3.9)

■読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる

レポートの下書きの一部について、文の一部を直す意図として適切なものを選択する

【大問3 設問一】51.5%(全国比 -2.8)

小学校算数

□加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができるかどうかをみる

〔(151+49)×3と151×3+49×3を計算したり、分配法則を用いたりして答えを求める
【大問3 設問(3)】72.9%(全国比 +0.5)

■百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる

〔示された基準量と比較量から、割合が30%になるものを選ぶ
【大問4 設問(1)】40.6%(全国比 -5.4)

■(2位数)÷(1位数)の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることができるかどうかをみる

〔66÷3の筆算の仕方を説明した図を基に、筆算の商の十の位に当たる式を選ぶ
【大問3 設問(4)】44.1%(全国比 -3.5)

■正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる

〔切って開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときのAの角の大きさを書く
【大問2 設問(3)】21.8%(全国比 -3.1)

■台形の意味や性質について理解しているかどうかをみる

〔テープを2本の直線で切ってできた四角形の名前と、その四角形の特徴を選ぶ
【大問2 設問(1)】56.7%(全国比 -3.1)

中学校数学

□累積度数の意味を理解しているかどうかをみる

〔女子50m自由形の記録の、最小の階級から29.00秒以上30.00秒未満の階級までの累積度数を求める
【大問5】52.1%(全国比 +6.0)

□事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる

〔グラフや式を用いて、新緑大学の選手が晴天大学の選手に追いつくのが、6区のスタート地点からおよそ何mの地点になるかを求める方法を説明する
【大問8(3)】44.1%(全国比 +1.3)

■ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明することができるかどうかをみる

〔2つの直線BCと直線AEが平行であることを、三角形の合同を基にして、同位角又は錯角が等しいことを示すことで証明する
【大問9(1)】28.1%(全国比 -4.0)

■結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見だし、説明することができるかどうかをみる

〔はじめの数にける数がいくつ、たす数がいくつであれば、計算結果はいつでも4の倍数になるかを説明する
【大問6(3)】37.1%(全国比 -3.8)

■四分位範囲の意味を理解しているかどうかをみる

〔1961年～1975年の四分位範囲を求める
【大問7(1)】62.4%(全国比 -3.3)

中学校英語

□情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる

〔ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する〕
【大問1 設問(1)】80.0%(全国比 +1.0)

□日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる

〔バーベキューパーティーについての説明を聞き、質問の答えとして最も適切なものを選択する〕
【大問3】42.0%(全国比 +0.8)

■「相手の行動を促す」という言語の働きを理解し、依頼する表現を正確に書くことができるかどうかをみる

〔メールの英文を依頼する表現に書き換える〕
【大問9 設問(2)】23.0%(全国比 -6.0)

■未来表現 (be going to) の肯定文を正確に書くことができるかどうかをみる

〔与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる〕
【大問9 設問(1)①】36.0%(全国比 -4.4)

■文と文との関係を正確に読み取ることができるかどうかをみる

〔図書館について書かれた英文を読み、文中の空所に入る適切な語句を選択する〕
【大問7 設問(1)】55.4%(全国比 -4.4)

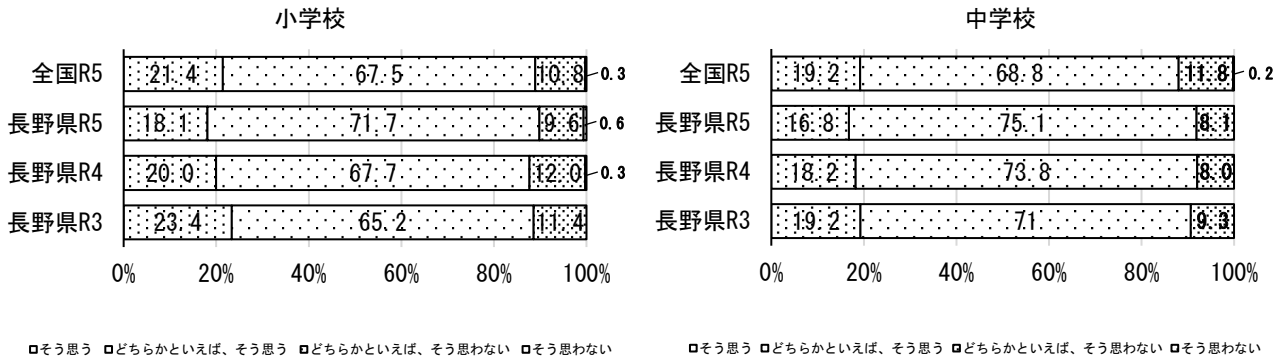
※本頁以降のグラフについて、「その他」や「無回答」の割合は極小値のため、見やすさの観点から表示していない。そのため、各グラフの合計値が100にならない場合もある。

2 学習指導要領の趣旨を踏まえた教育活動の取組状況

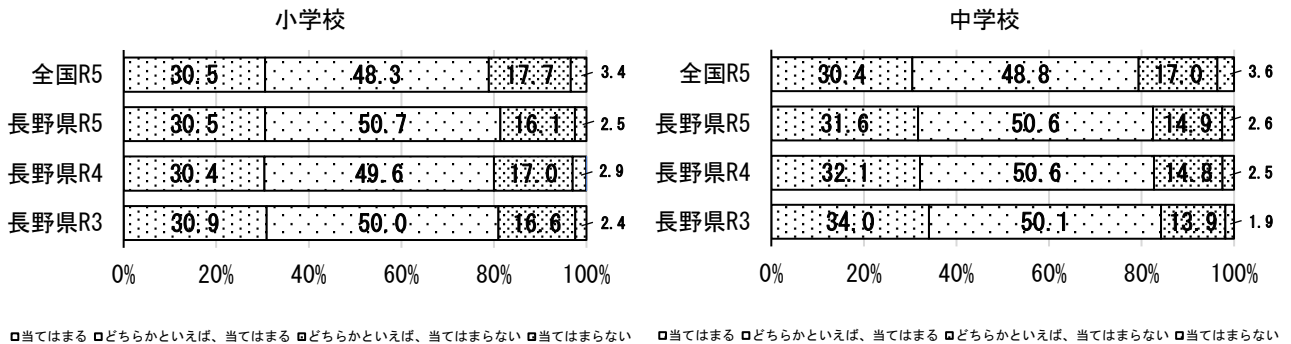
(1) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善①

- 「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができているか」について肯定的に回答した割合は、全国より小学校、中学校ともに上回っている。また、この質問に肯定的に回答した児童生徒の割合は、ともに80%を超え、全国平均を上回っている。
- この質問に肯定的に回答した児童生徒の方が、各教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

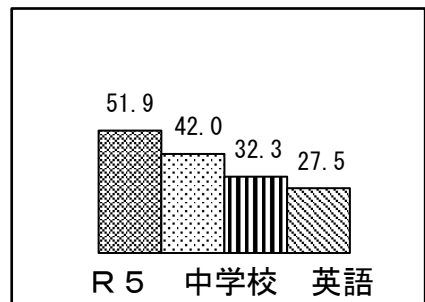
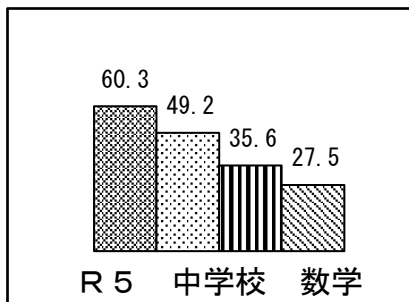
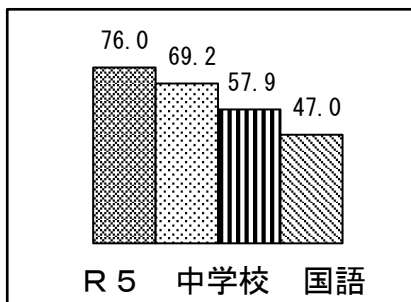
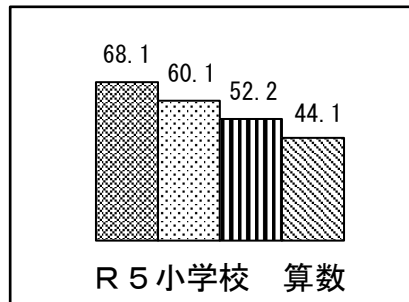
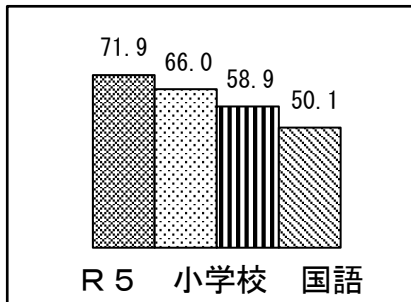
【学校質問紙】調査対象学年の児童（生徒）は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか



【児童生徒質問紙】5年生まで（1、2年生のとき）に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか



児童生徒質問紙の選択肢毎の平均正答率（%）

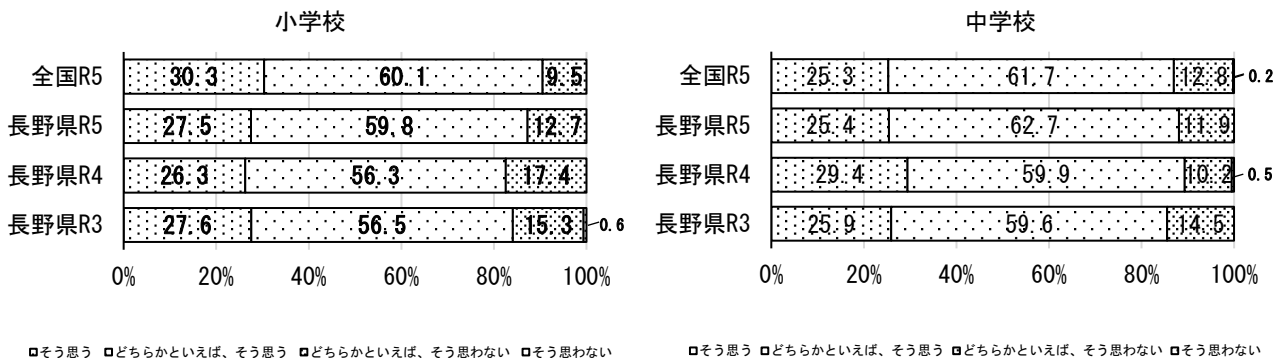


1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない

(1) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善②

○「授業において、児童（生徒）自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れたか」について肯定的に回答した割合は、令和4年度より小学校では増加し、中学校では減少している。また、肯定的に回答した割合は、小学校で全国を下回り、中学校で全国を上回っている。

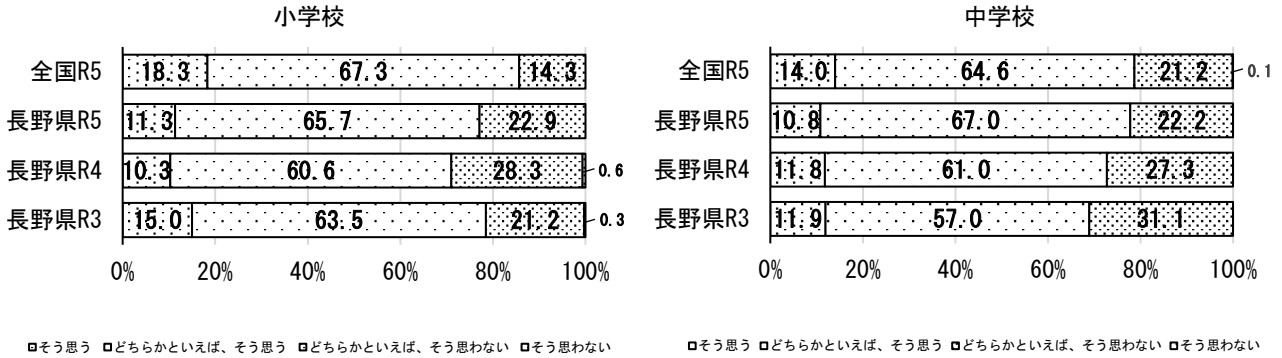
【学校質問紙】 調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、授業において、児童（生徒）自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか



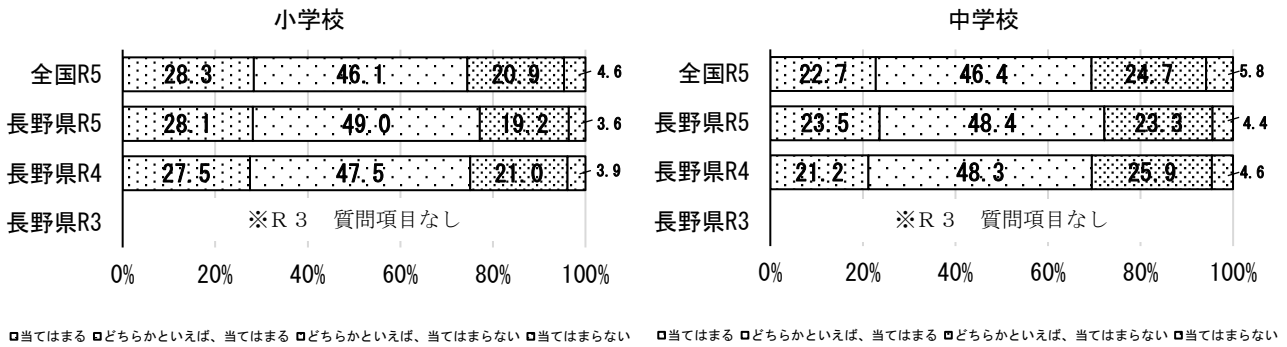
(1) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善③

- 「各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けたか」について肯定的に回答した割合は、小学校で全国を下回り、中学校で全国と同程度であった。
- 「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていたか」について肯定的に回答した割合は、令和4年度より小学校、中学校ともに増加し、全国を上回っている。この質問に肯定的に回答した児童生徒の方が、各教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

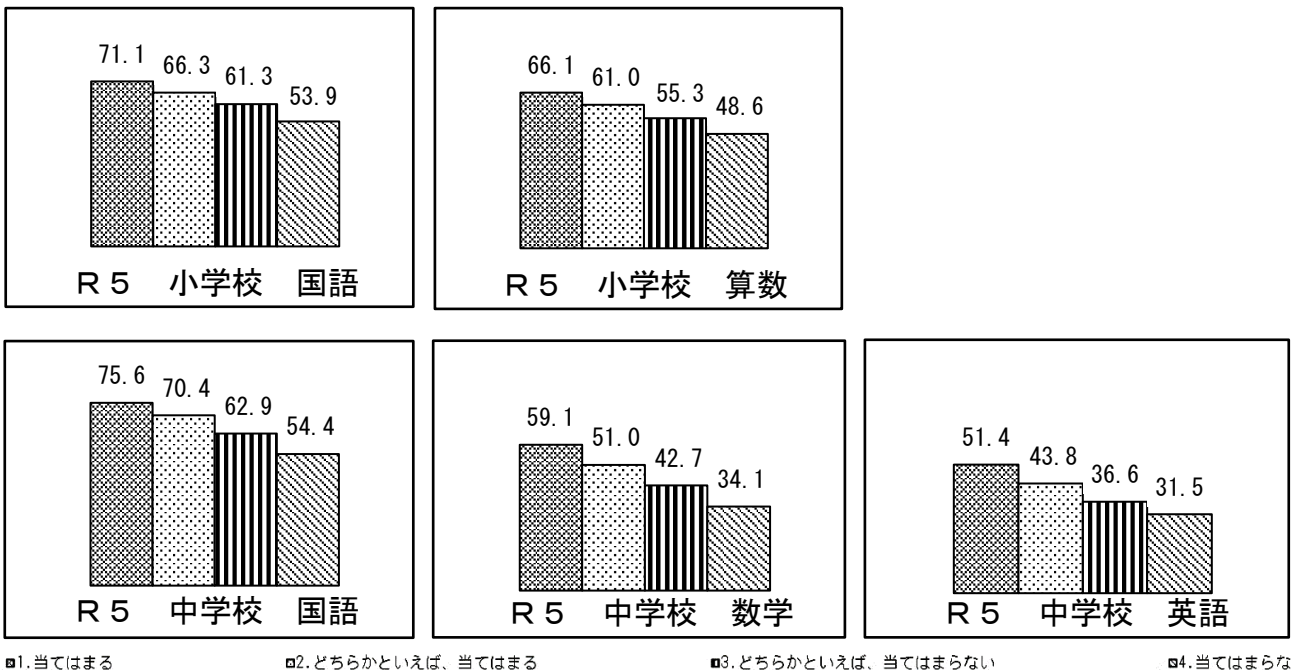
【学校質問紙】 調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか



【児童生徒質問紙】 5年生まで（1、2年生のとき）に受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか



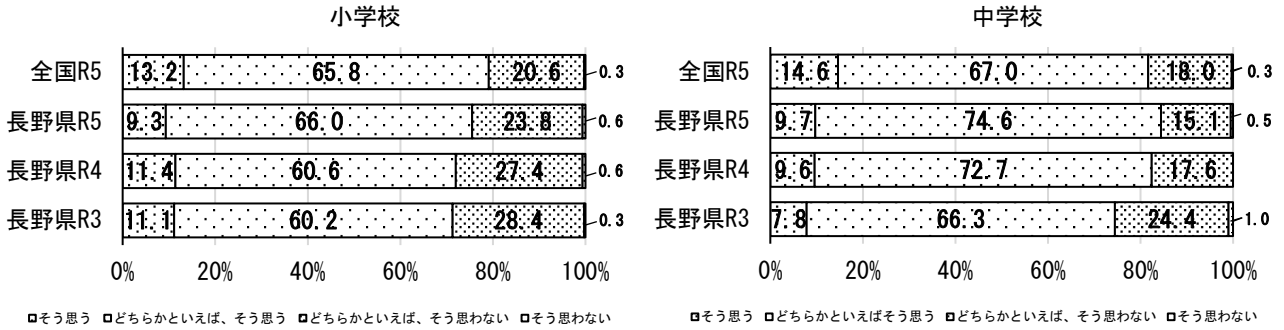
児童生徒質問紙の選択肢毎の平均正答率（%）



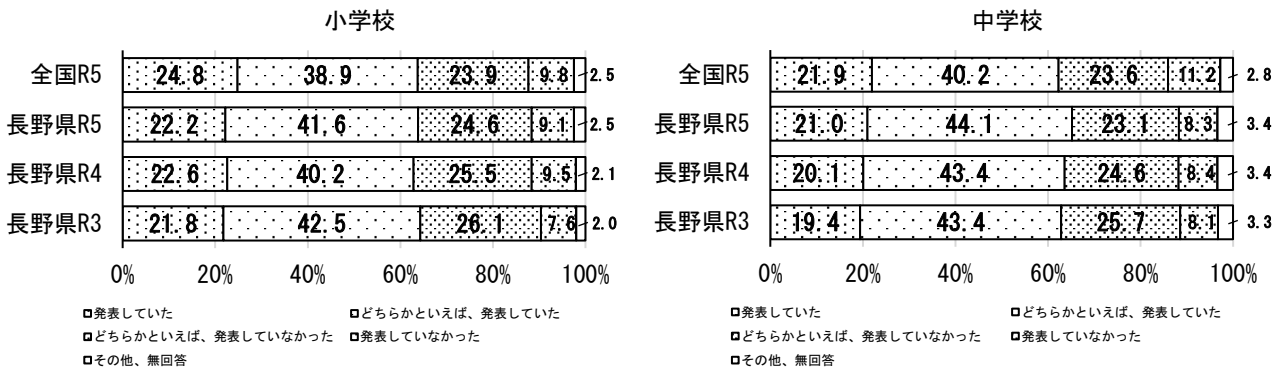
(1) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善④

- 「自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができているか」について肯定的に回答した割合は、令和3年度以降、小学校、中学校ともに増加している。
- 「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発表していたか」について肯定的に回答した割合は、児童では全国と同程度であり、生徒では全国を上回った。この質問に肯定的に回答した児童生徒の方が、各教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

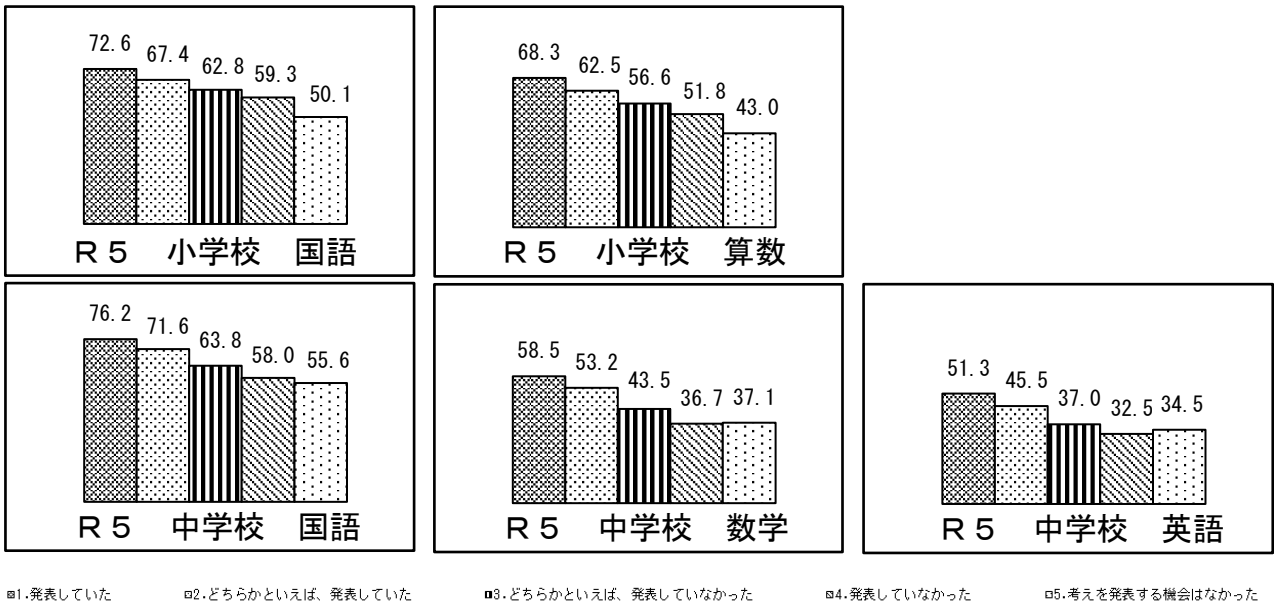
【学校質問紙】調査対象学年の児童（生徒）は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか



【児童生徒質問紙】5年生まで（1、2年生のとき）に受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか



児童生徒質問紙の選択肢毎の平均正答率（%）

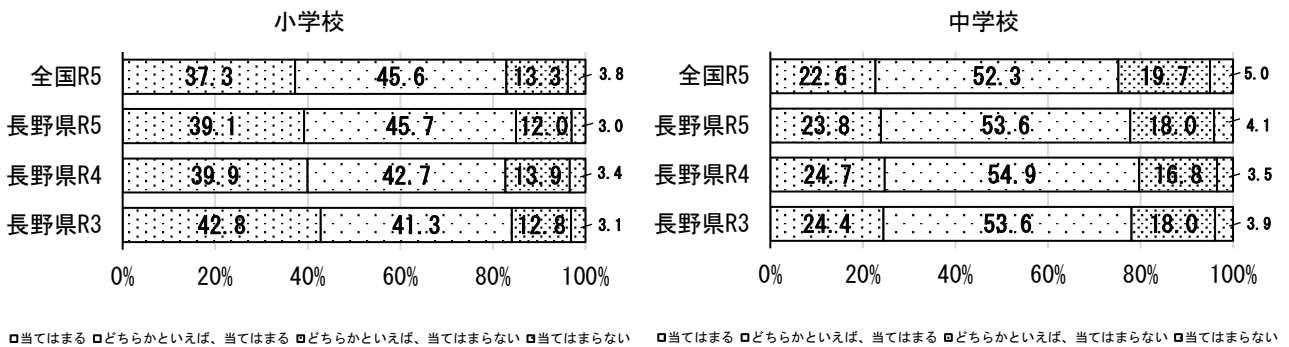


■1.発表していた □2.どちらかといえば、発表していた ■3.どちらかといえば、発表していなかった □4.発表していなかった □5.考えを発表する機会はなかった

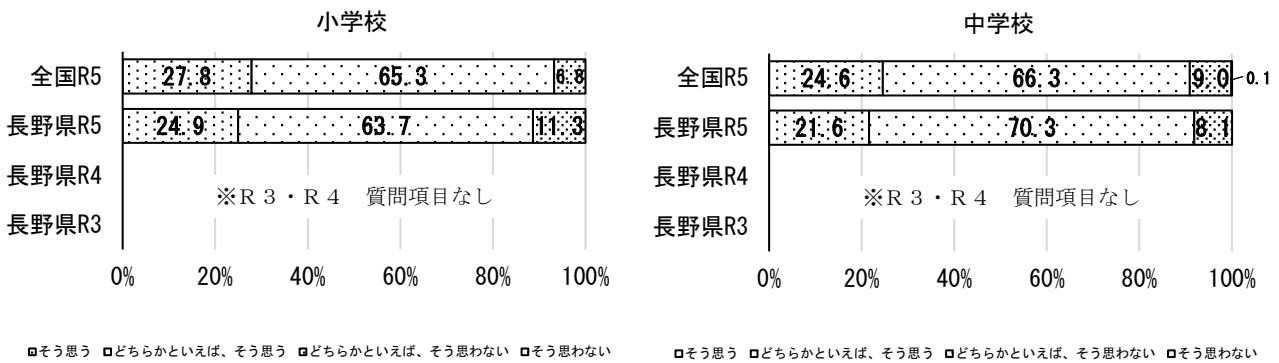
(2) 個別最適な学び（個に応じた指導）・協働的な学びに関する状況

- 「授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていたか」について肯定的に回答した割合は、生徒で令和4年度より減少したものの、児童生徒ともに全国を上回っている。
- 「学習指導において、児童（生徒）一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫したか」について肯定的に回答した割合は、小学校で全国を下回り、中学校で全国を上回っている。
- 「児童（生徒）が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したか」について肯定的に回答した割合は、小学校、中学校ともに全国同様高く、95%程度である。

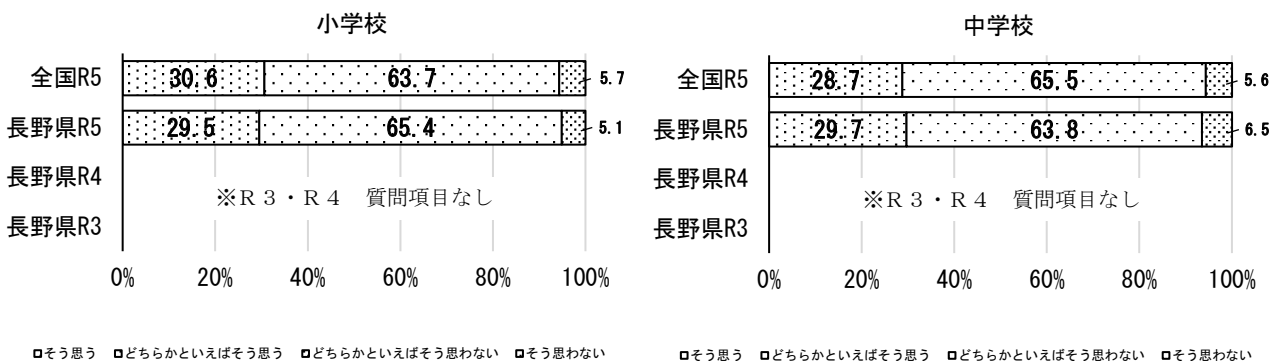
【児童生徒質問紙】5年生まで（1、2年生のとき）に受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか



【学校質問紙】調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、学習指導において、児童生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか（新規）



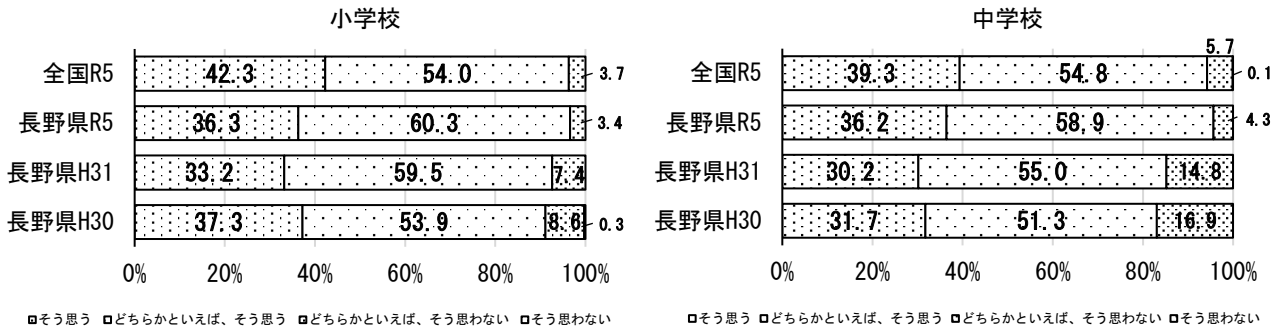
【学校質問紙】調査対象学年の児童（生徒）に対して、前年度までに、児童（生徒）が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか（新規）



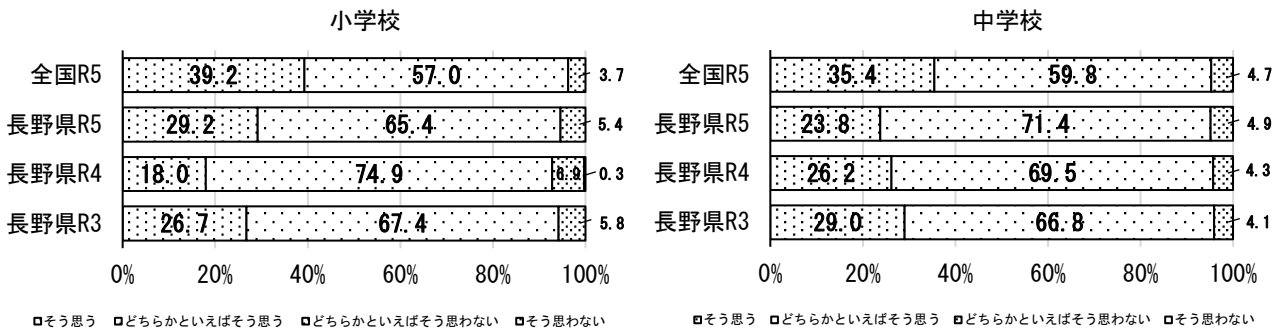
(3) カリキュラム・マネジメントに関する状況

- 「各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成しているか」について肯定的に回答した割合は、小学校、中学校ともに平成31年度より増加し、95%を超えている。
- 「児童（生徒）の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立しているか」について肯定的に回答した割合は、小学校、中学校ともに全国同様高く、95%程度である。

【学校質問紙】教育課程表（全体計画や年間指導計画等）について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成していますか



【学校質問紙】児童（生徒）の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか



3 教科に関する質問紙調査の状況 国語

小学校 国語

(1) 児童の興味関心と小学校の指導状況

- 児童の興味関心について、肯定的に回答した児童の割合は、全ての項目において令和4年度及び全国を上回っている。
- 小学校の指導状況について、肯定的に回答した小学校の割合は、全ての項目において全国を下回っている。
- 「国語の勉強が好き」と回答した児童の方が、平均正答率が高い傾向が見られる。

[児童の興味関心]

国語の勉強は好きですか

全国R5	23.8	37.7	25.2	13.3
長野県R5	25.1	42.3	23.1	9.5
長野県R4	24.0	40.5	25.4	10.0
長野県R3	22.4	39.4	27.4	10.7

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

国語の勉強は大切だと思いますか

全国R5	69.1	25.1	4.0	1.8
長野県R5	70.3	24.9	3.4	1.3
長野県R4	68.7	25.4	4.2	1.6
長野県R3	69.0	24.7	4.6	1.7

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

国語の授業の内容はよく分かりますか

全国R5	40.4	45.3	11.3	2.9
長野県R5	40.2	47.2	10.4	2.1
長野県R4	39.1	46.9	11.1	2.8
長野県R3	38.5	47.6	11.5	2.4

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

全国R5	64.4	28.4	5.2	1.8
長野県R5	67.1	27.5	4.1	1.3
長野県R4	66.5	26.7	5.0	1.7
長野県R3	65.5	27.3	5.6	1.6

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

[小学校の指導状況]

自分と相手との間に好ましい関係を築き、継続させるといった言葉の働きに気付くことができるような指導を行いましたか

全国R5	30.0	62.9	7.0	0.1
長野県R5	25.2	64.3	10.2	0.3

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、異なる意見を自分の考えに生かして考えをまとめるような指導を行いましたか

全国R5	27.9	65.3	6.7	0.1
長野県R5	20.7	65.4	13.6	0.3

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

互いの書いた文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるような指導を行いましたか

全国R5	32.0	60.4	7.5	0.1
長野県R5	30.9	59.5	9.3	0.3

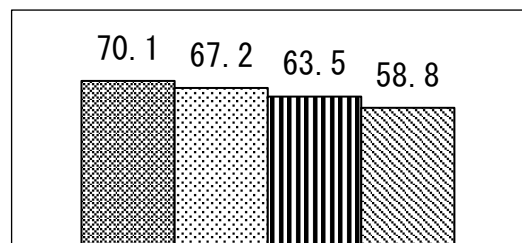
□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えて読むことができるような指導を行いましたか

全国R5	36.9	59.9	3.1	0.1
長野県R5	34.3	61.2	4.5	0.1

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

「国語の勉強は好きか」の選択肢毎の平均正答率(%)



□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる
□3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない

(2) 生徒の興味関心と中学校の指導状況

○生徒の興味関心について、肯定的に回答した生徒の割合は、全ての質問項目において全国より上回っている。「国語の勉強は好きか」について、肯定的に回答した生徒の割合は令和4年度から増加しているが、「国語の勉強は好きか」以外は、令和4年度と同様、または減少している。

○中学校の指導状況について、肯定的に回答した中学校の割合は、「自分の考えを分かりやすく伝えるために、聞き手の立場に立って効果的な話し方を工夫することができるような指導を行いましたか」以外、全国を上回っている。

○「国語の勉強が好き」と回答した生徒の方が、平均正答率が高い傾向が見られる。

〔生徒の興味関心〕

〔中学校の指導状況〕

国語の勉強は好きですか

全国R5	23.6	37.8	26.3	12.2
長野県R5	21.7	40.3	27.6	10.3
長野県R4	21.0	39.7	29.7	9.5
長野県R3	21.4	38.0	29.6	10.9

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

国語の勉強は大切だと思いますか

全国R5	60.0	32.4	5.3	2.1
長野県R5	60.0	32.5	5.5	1.8
長野県R4	61.8	31.7	4.9	1.6
長野県R3	58.3	33.5	6.4	1.8

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

国語の授業の内容はよく分かりますか

全国R5	30.4	49.6	15.8	3.8
長野県R5	30.0	51.3	16.1	3.2
長野県R4	31.2	51.6	14.3	2.9
長野県R3	31.5	49.8	15.0	3.4

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

全国R5	52.3	36.4	8.3	2.7
長野県R5	52.7	36.5	7.8	2.5
長野県R4	55.0	35.1	7.5	2.3
長野県R3	52.1	36.4	8.8	2.5

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

行書の基礎的な書き方（「点画の連続」や「点画の省略」、「筆順の変化」など）を理解して書くことができるような指導を行いましたか

全国R5	21.2	57.9	17.2	3.3
長野県R5	15.7	66.5	17.8	

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

自分の考えを分かりやすく伝えるために、聞き手の立場に立って効果的な話し方を工夫することができるような指導を行いましたか

全国R5	32.7	61.3	5.8	0.1
長野県R5	28.6	64.3	7.9	

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書くことができるような指導を行いましたか

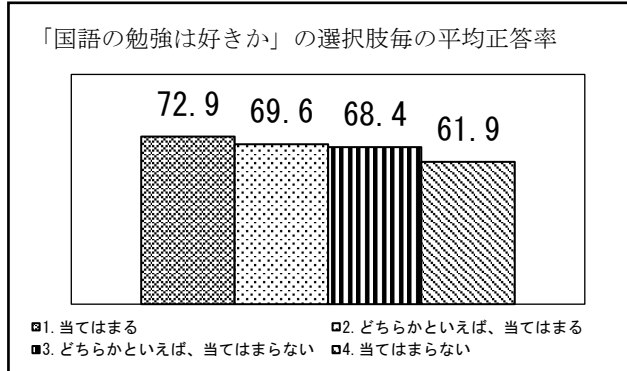
全国R5	37.5	56.5	5.7	0.1
長野県R5	35.7	58.9	5.4	

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

文学的な文章を読み、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えることができるような指導を行いましたか

全国R5	54.2	44.3	1.2	0.1
長野県R5	62.2	37.8		

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない



4 教科に関する質問紙調査の状況 算数・数学

小学校 算数

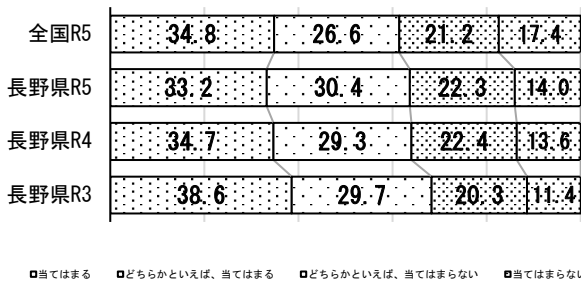
(1) 児童の興味関心と小学校の指導状況

- 児童の興味関心について、肯定的に回答した児童の割合は、全ての項目において、全国と同程度、または全国を上回っている。
- 「算数の勉強は大切だと思うか」「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思うか」について肯定的に回答した児童の割合は、90%を超えている。
- 小学校における指導状況について、いずれの項目も肯定的に回答した小学校の割合は、全国よりも下回っているものの、令和4年度より上回っており、特に「実生活における事象との関連を図った授業を行ったか」については、13ポイント上昇している。
- 「算数の勉強が好き」と回答した児童の方が、平均正答率が高い傾向が見られる。

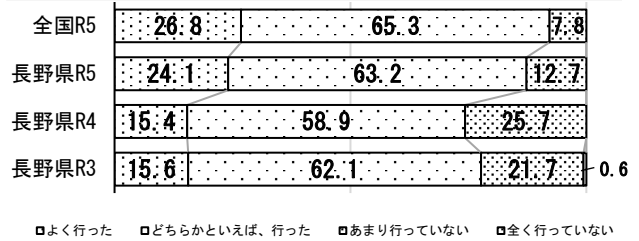
[児童の興味関心]

[小学校の指導状況]

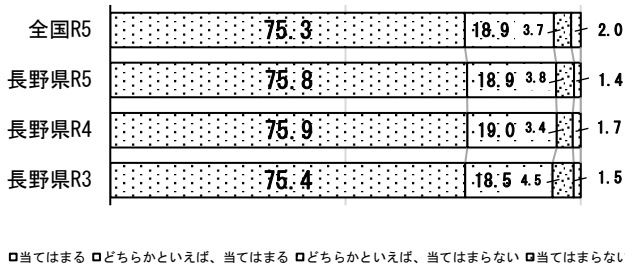
算数の勉強は好きですか



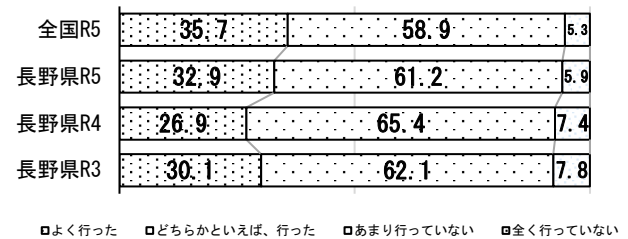
実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか



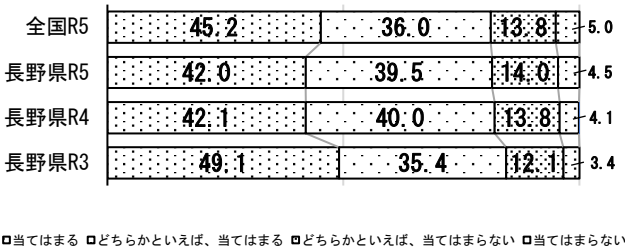
算数の勉強は大切だと思いますか



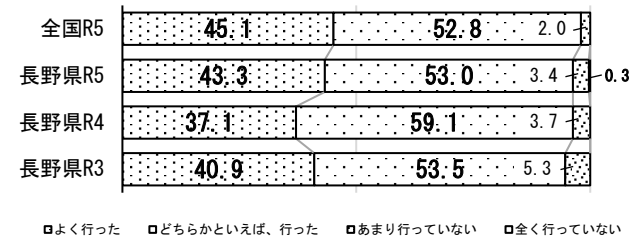
具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を持った理解をする活動を行いましたか



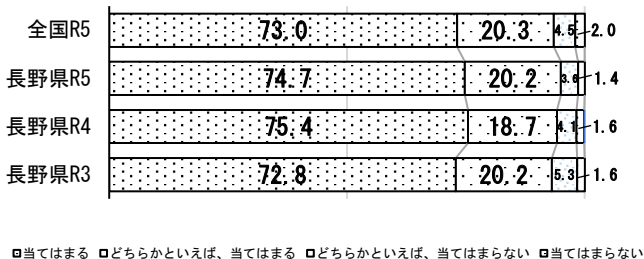
算数の授業の内容はよく分かりますか



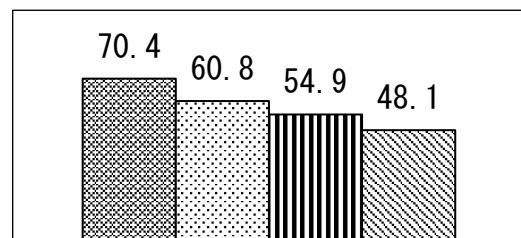
公式やきまり、計算の仕方等を指導するとき、児童にそのわけを理解できるように工夫していましたか



算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか



「算数の勉強は好きか」の選択肢毎の平均正答率(%)



- 1. 当てはまる
- 2. どちらかといえば、当てはまる
- 3. どちらかといえば、当てはまらない
- 4. 当てはまらない

(2) 生徒の興味関心と中学校の指導状況

○生徒の興味関心について、肯定的に回答した生徒の割合は、全ての項目において、令和4年度より減少している。特に「数学の授業の内容はよく分かりますか」は5ポイント程度減少している。
 ○「数学の勉強が好き」以外について、肯定的に回答した生徒の割合は、全国を上回っている。
 ○学校における指導状況について、肯定的に回答した生徒の割合は、全ての質問項目において、全国を上回っている。特に、「観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動を行いましたか」は、令和4年度より9ポイント上昇し、90%を超えている。

[生徒の興味・関心]

数学の勉強は好きですか

全国R5	29.1	27.6	24.3	18.8
長野県R5	27.5	28.9	25.9	17.5
長野県R4	28.7	29.7	26.4	15.2
長野県R3	29.9	29.3	24.8	15.8

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

数学の勉強は大切だと思いますか

全国R5	49.8	35.2	10.5	4.2
長野県R5	49.4	35.8	10.6	4.0
長野県R4	51.8	36.4	9.0	2.7
長野県R3	48.4	37.1	10.9	3.5

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

数学の授業の内容はよく分かりますか

全国R5	33.9	39.4	18.8	7.7
長野県R5	33.4	41.1	18.3	6.9
長野県R4	38.2	41.7	15.5	4.5
長野県R3	36.4	40.1	17.9	5.4

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

全国R5	38.8	37.0	16.9	6.9
長野県R5	39.3	36.9	16.9	6.4
長野県R4	41.0	36.9	16.3	5.7
長野県R3	37.3	38.5	17.8	6.1

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

[中学校の指導状況]

実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか

全国R5	22.1	65.9	11.7	0.2
長野県R5	27.0	64.9	8.1	
長野県R4	19.8	66.3	13.9	
長野県R3	18.1	62.2	19.7	

□よく行った □どちらかといえば、行った □あまり行っていない □全く行っていない

観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動を行いましたか

全国R5	22.2	62.1	15.2	0.3
長野県R5	22.2	69.7	8.1	
長野県R4	20.3	62.6	16.6	0.5
長野県R3	21.2	61.1	17.1	0.5

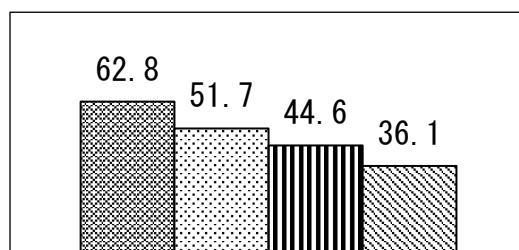
□よく行った □どちらかといえば、行った □あまり行っていない □全く行っていない

公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫していましたか

全国R5	48.4	49.2	2.2	0.1
長野県R5	51.4	47.6	1.1	
長野県R4	40.1	56.7	3.2	
長野県R3	39.4	56.5	4.1	

□よく行った □どちらかといえば、行った □あまり行っていない □全く行っていない

「数学の勉強は好きか」の選択肢毎の平均正答率(%)



□1. 当てはまる □2. どちらかといえば、当てはまる □3. どちらかといえば、当てはまらない □4. 当てはまらない

5 教科に関する質問紙調査の状況 英語

小学校 英語

(1) 児童の興味関心

○児童の興味関心について、肯定的に回答した児童の割合は、全ての項目において全国と同程度、または下回っている。
 ○「英語の勉強は好きですか」については肯定的に回答した児童の割合は、令和3年度より増加している。

[児童の興味関心]

英語の勉強は好きですか

全国R5	38.6	30.7	18.2	12.5
長野県R5	35.3	33.5	20.1	11.1
長野県R3	34.5	32.1	21.5	11.8

将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業についたりしたいと思いますか（新規）

全国R5	28.9	23.6	28.5	18.9
長野県R5	26.6	24.0	30.9	19.5

当てはまる どちらかといえば、当てはまる どちらかといえば、当てはまらない 当てはまらない 当てはまる どちらかといえば、当てはまる どちらかといえば、当てはまらない 当てはまらない

英語の勉強は大切だと思いますか（新規）

全国R5	69.8	21.5	5.8	2.9
長野県R5	68.8	22.4	6.1	2.7

当てはまる どちらかといえば、当てはまる どちらかといえば、当てはまらない 当てはまらない

中学校 英語

(2) 生徒の興味関心

○生徒の興味関心について、「英語の授業の内容はよく分かりますか」以外の項目で肯定的に回答した生徒の割合は全国を下回っている。
 ○「英語の勉強は大切だと思いますか」「英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」で肯定的に回答した生徒の割合は、平成31年度より上昇している。
 ○「英語の勉強が好き」と回答した生徒の方が、平均正答率が高い傾向が見られる。

[生徒の興味関心]

英語の勉強は好きですか

全国R5	25.2	26.7	25.5	22.4
長野県R5	22.7	27.2	27.9	22.0
長野県R3	27.0	29.1	26.1	17.6
長野県H31	26.3	27.5	27.2	18.9

将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業についたりしたいと思いますか

全国R5	15.7	21.0	31.9	30.9
長野県R5	14.2	19.9	34.1	31.0
長野県H31	16.9	23.8	32.8	26.1

当てはまる どちらかといえば、当てはまる どちらかといえば、当てはまらない 当てはまらない 当てはまる どちらかといえば、当てはまる どちらかといえば、当てはまらない 当てはまらない

英語の勉強は大切だと思いますか

全国R5	61.6	26.4	7.6	4.2
長野県R5	59.6	28.0	8.1	4.0
長野県H31	57.0	28.0	10.0	4.9

英語の授業の内容はよく分かりますか

全国R5	28.0	35.9	23.3	12.4
長野県R5	26.1	38.1	23.9	11.4
長野県H31	27.6	38.4	23.6	10.2

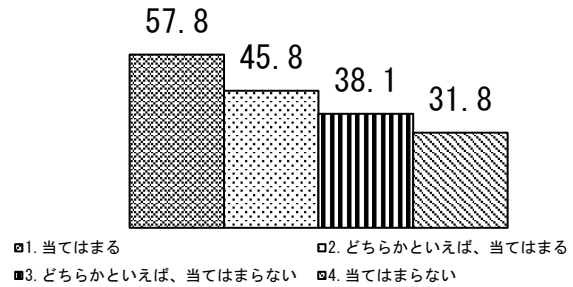
当てはまる どちらかといえば、当てはまる どちらかといえば、当てはまらない 当てはまらない 当てはまる どちらかといえば、当てはまる どちらかといえば、当てはまらない 当てはまらない

英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

全国R5	62.4	25.1	7.8	4.3
長野県R5	61.3	25.7	8.2	4.3
長野県H31	60.2	25.2	9.6	4.9

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

「英語の勉強は好きか」の選択肢毎の平均正答率



(3) 中学校の指導状況と生徒の受け止め

中学校 英語

- 中学校の指導状況について、全ての項目について肯定的に回答した割合は平成 31 年度より上昇している。特に「原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う言語活動を行ったか」は、25 ポイント程度上昇している。
- 生徒の受け止めについて、全ての項目において肯定的に回答した割合は全国を下回ったものの、平成 31 年度より上昇している。特に「スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか」は9ポイント程度上昇した。
- 学校質問紙調査と生徒質問紙調査の同様な質問について、「聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする言語活動を行ったか(学校質問紙)、活動が行われていたと思うか(生徒質問紙)」以外、肯定的回答は、学校質問紙の方が、生徒質問紙より高い。特に、「英語を読んで(一文一文ではなく全体の)概要や要点を捉える言語活動を行ったか(学校質問紙)」は、「英語を読んで(一文一文ではなく全体の)概要や要点を捉える活動が行われていたと思うか(生徒質問紙)」は、20ポイント上回っている。
- 「(一文一文ではなく全体の)概要や要点をとらえる活動が行われていたと思う」や「自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたと思う」と回答した生徒の方が、平均正答率が高い傾向が見られる。

[中学校の指導状況]

[生徒の受け止め]

英語を聞いて(一文一文ではなく全体の)概要や要点を捉える言語活動を行ったか

全国R5	38.4	55.8	5.5	0.3
長野県R5	30.8	62.7	6.5	
長野県H31	23.3	65.1	11.6	

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

英語を聞いて(一文一文ではなく全体の)概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか

全国R5	32.7	45.5	14.4	5.3
長野県R5	30.3	45.5	14.9	5.5
長野県H31	30.6	47.6	17.2	4.4

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

聞
く

英語を読んで(一文一文ではなく全体の)概要や要点を捉える言語活動を行ったか

全国R5	43.0	53.1		3.7
長野県R5	42.2	56.2		1.6
長野県H31	30.2	59.3	10.6	

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

英語を読んで(一文一文ではなく全体の)概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか

全国R5	34.9	45.4	12.7	4.6
長野県R5	33.1	45.3	13.2	4.4
長野県H31	33.0	48.1	14.8	3.8

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

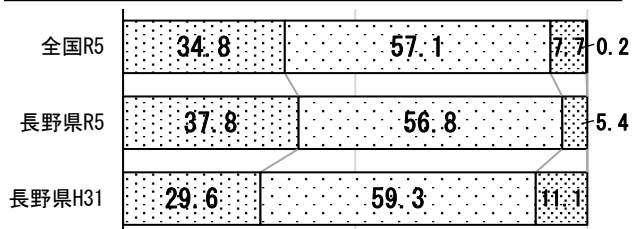
読
む

[中学校の指導状況]

[生徒の受け止め]

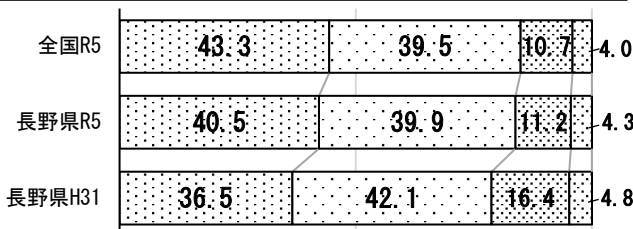
書く

自分の考えや気持ちなどを英語で書く言語活動を行ったか



□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

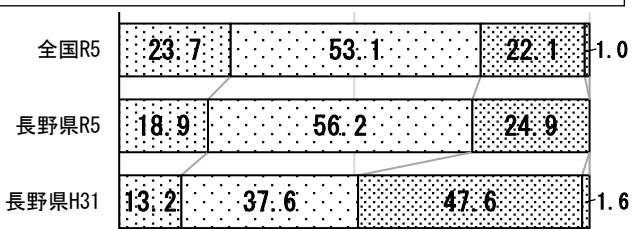
自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたと思いますか



□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

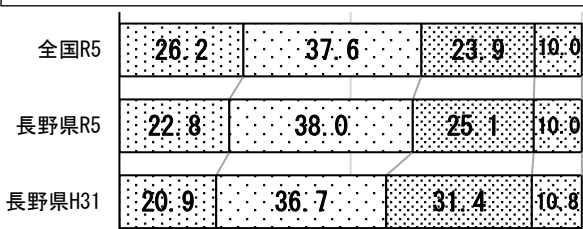
話す(やり取り)

原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う言語活動を行ったか



□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

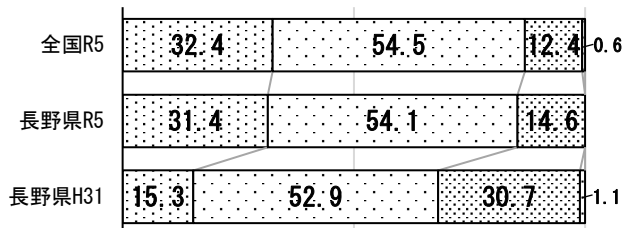
原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか



□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

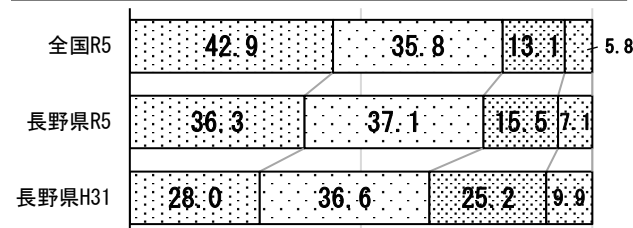
話す(発表)

スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する言語活動を行ったか



□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

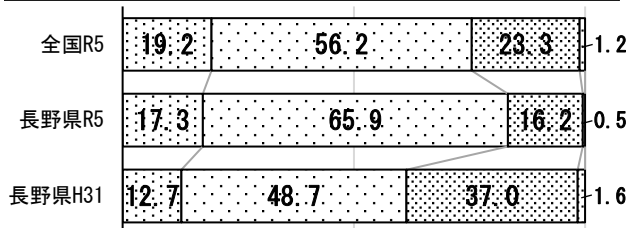
スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか



□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

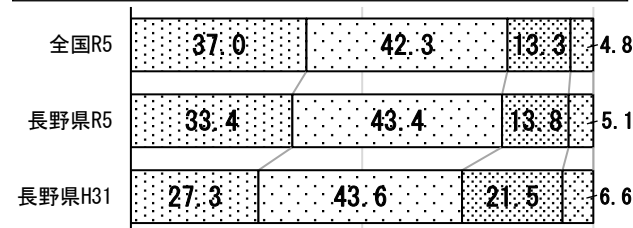
総合的な言語活動
(聞く・読む・書く)

聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする言語活動を行ったか



□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動が行われていたと思いますか



□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

[中学校の指導状況]

聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする言語活動を行ったか

全国R5	24.3	49.9	24.0	1.6
長野県R5	14.1	62.2	22.7	1.1
長野県H31	11.1	38.1	48.7	2.1

□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

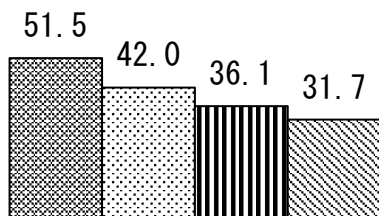
[生徒の受け止め]

聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動が行われていたと思いますか

全国R5	41.7	39.0	12.2	4.6
長野県R5	37.0	40.3	13.0	5.5
長野県H31	30.7	40.4	21.1	7.5

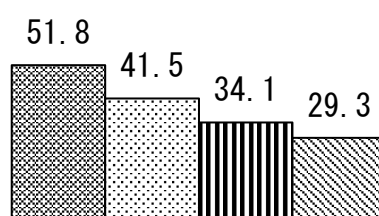
□当てはまる □どちらかといえば、当てはまる □どちらかといえば、当てはまらない □当てはまらない

【聞く】「英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか」の選択肢毎の平均正答率



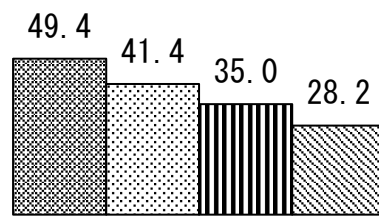
■1. 当てはまる ■2. どちらかといえば、当てはまる
■3. どちらかといえば、当てはまらない ■4. 当てはまらない

【読む】「英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか」の選択肢毎の平均正答率



■1. 当てはまる ■2. どちらかといえば、当てはまる
■3. どちらかといえば、当てはまらない ■4. 当てはまらない

【書く】「自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたと思いますか」の選択肢毎の平均正答率



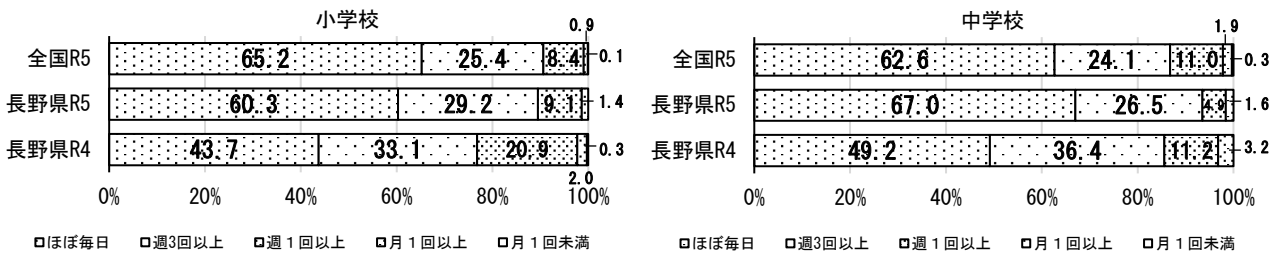
■1. 当てはまる ■2. どちらかといえば、当てはまる
■3. どちらかといえば、当てはまらない ■4. 当てはまらない

6 ICT を活用した学習状況

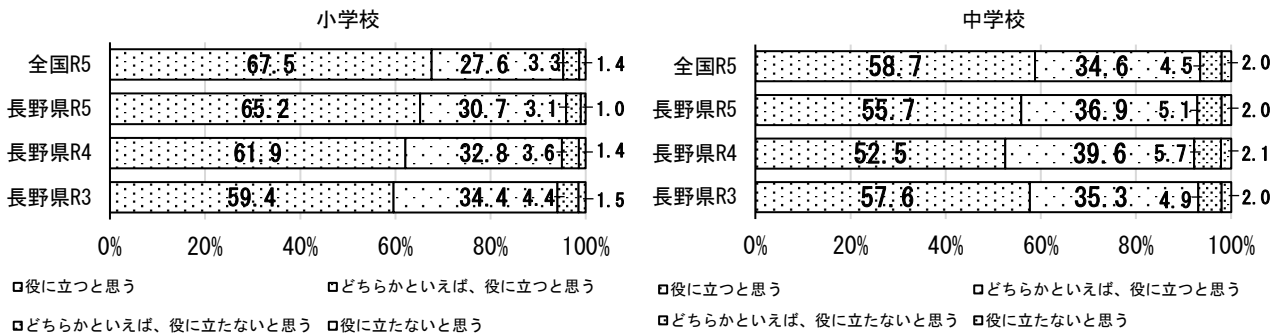
(1) ICT の活用状況等①

- 「児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用したか」について、週3回以上（「ほぼ毎日」も含む）と回答した割合は、令和4年度より小学校は13ポイント程度、中学校で8ポイント程度上昇している。特に中学校では全国を上回り、90%を超えている。
- 「PC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うか」について、肯定的に回答した児童生徒の割合は全国と同様95%を超えている。
- 「児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしているか」について、「毎日持ち帰って毎日使用している」、「毎日持ち帰って時々使用している」と回答した児童生徒の割合は、全国を下回っているが、令和4年度より上昇している。

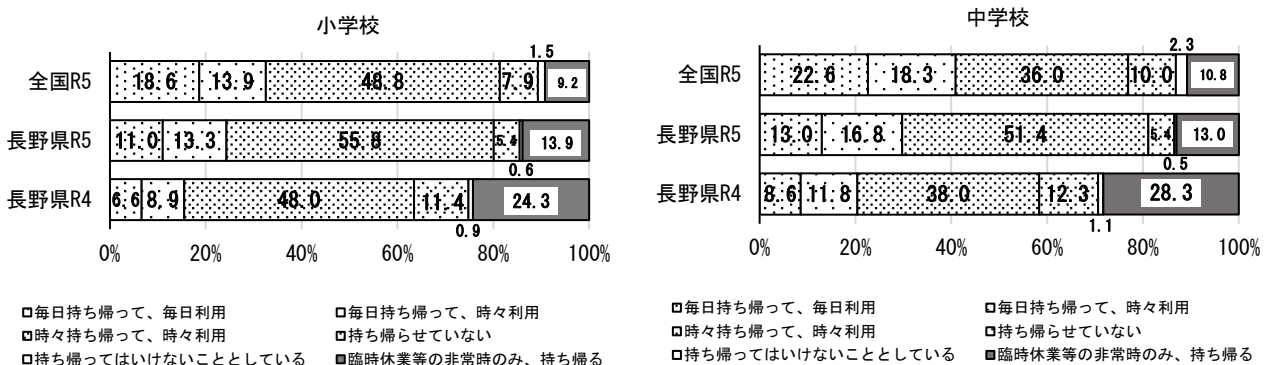
【学校質問紙】前年度までに、児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか



【児童生徒質問紙】学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか



【学校質問紙】児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか

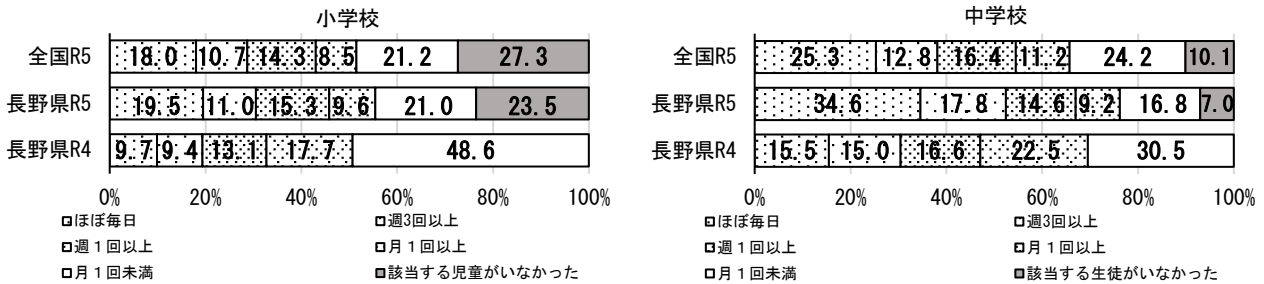


(1) ICTの活用状況等②

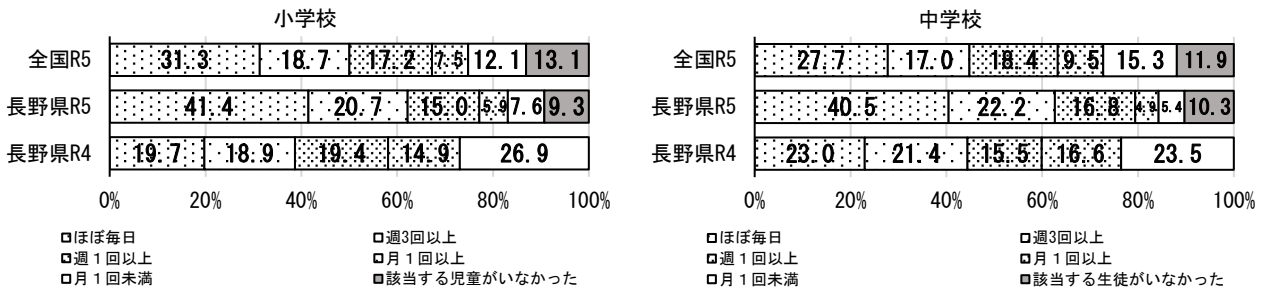
- 「児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、不登校児童（生徒）に対する学習活動等の支援に活用している」について、週3回以上（「ほぼ毎日」も含む）と回答した割合は、小学校、中学校、どちらも全国を上回っている。特に中学校では50%を超えている。
- 「児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、特別な支援を要する児童（生徒）に対する学習活動等の支援に活用している」について、週3回以上（「ほぼ毎日」も含む）と回答した小学校・中学校は、どちらも全国を上回り、6割を超えている。
- 「児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、外国人児童（生徒）に対する学習活動等の支援に活用している」について、該当する児童生徒がいないと回答した小学校、中学校の割合は、70%以上である。また、週3回以上（「ほぼ毎日」も含む）と回答した割合は、小学校は全国を下回り、中学校は全国程度である。

【学校質問紙】児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、以下のよう
な用途でどの程度活用していますか

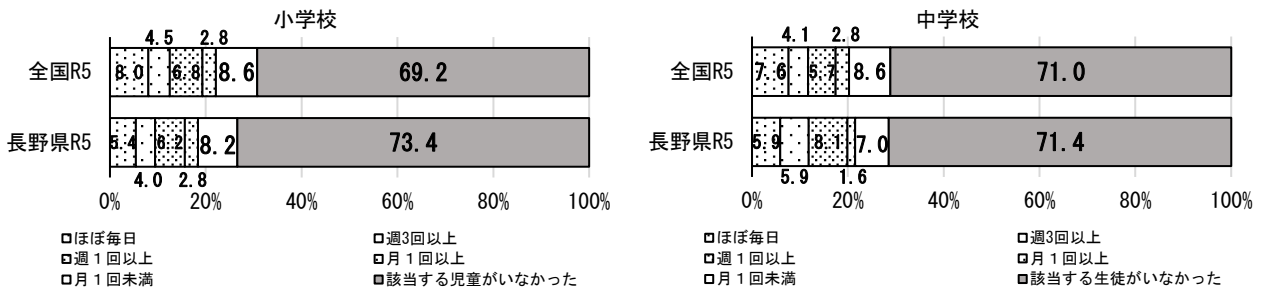
■不登校児童生徒に対する学習活動等の支援



■特別な支援を要する児童生徒に対する学習活動等の支援



■外国人児童生徒に対する学習活動等の支援（新規）

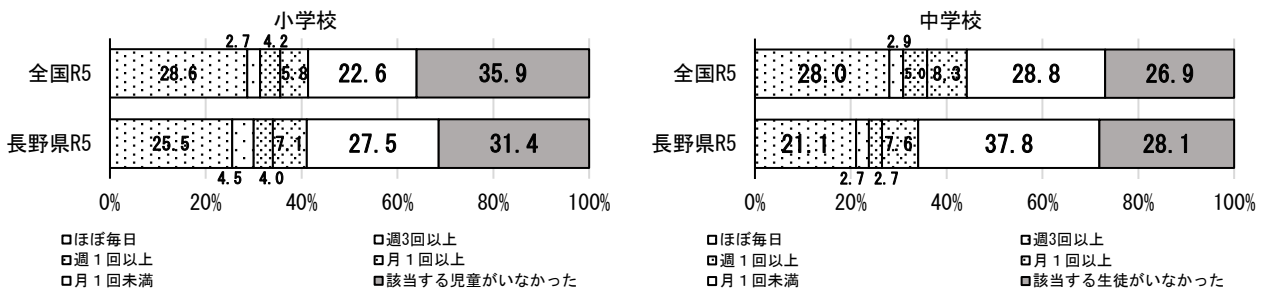


(1) ICTの活用状況等③

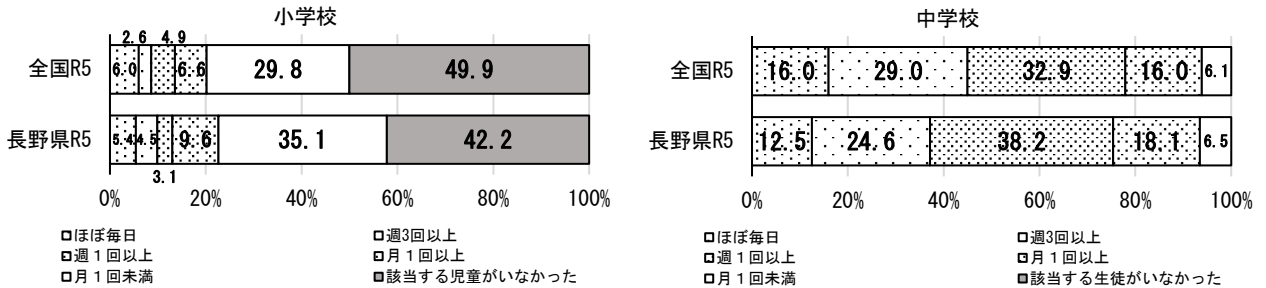
- 「児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、児童（生徒）の心身の状況の把握に活用している」について、該当する児童生徒がいないと回答した小学校、中学校の割合は、30%程度ある。また、週3回以上（「ほぼ毎日」も含む）と回答した小学校、中学校の割合は、全国を下回っている。
- 「児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、児童（生徒）に対するオンラインを活用した相談・支援に活用している」について、該当する児童生徒がいないと回答した小学校の割合は40%以上である。また、週3回以上（「ほぼ毎日」も含む）と回答した小学校、中学校の割合は、全国を下回っている。

【学校質問紙】児童（生徒）一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、以下のよう
な用途でどの程度活用していますか

■児童生徒の心身の状況の把握（新規）



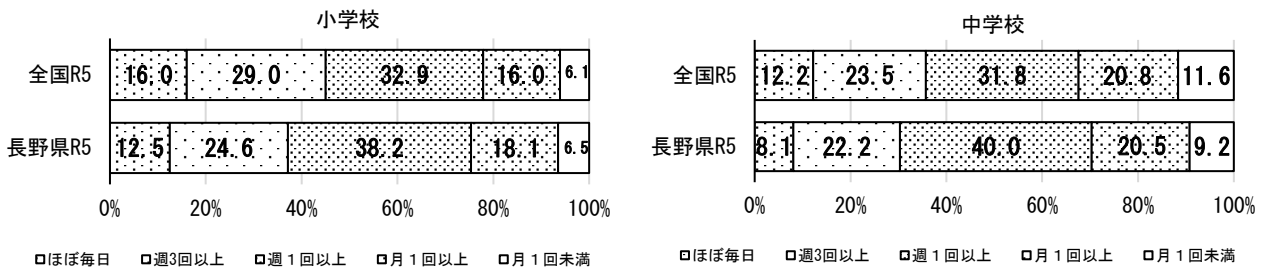
■児童生徒に対するオンラインを活用した相談・支援（新規）



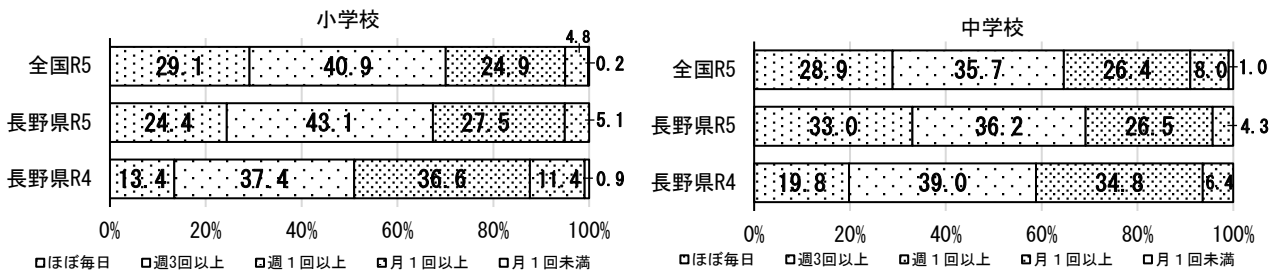
(2) 個別最適な学び（個に応じた指導）や主体的・対話的で深い学びにおける ICT の活用状況等①

- 「自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童（生徒）一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用させているか」について、週3回以上（「ほぼ毎日」も含む）と回答した割合は、小学校では8ポイント程度、中学校では5ポイント程度、全国を下回っている。
- 「自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、児童（生徒）一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用させているか」について、週3回以上（「ほぼ毎日」も含む）と回答した小学校、中学校の割合は、どちらも令和4年度を上回り、65%を超えている。
- 「教職員と児童（生徒）がやりとりする場面では、児童（生徒）一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用させているか」について、週3回以上（「ほぼ毎日」も含む）と回答した小学校、中学校の割合は、どちらも令和4年度を上回り、特に中学校では50%を超えている。

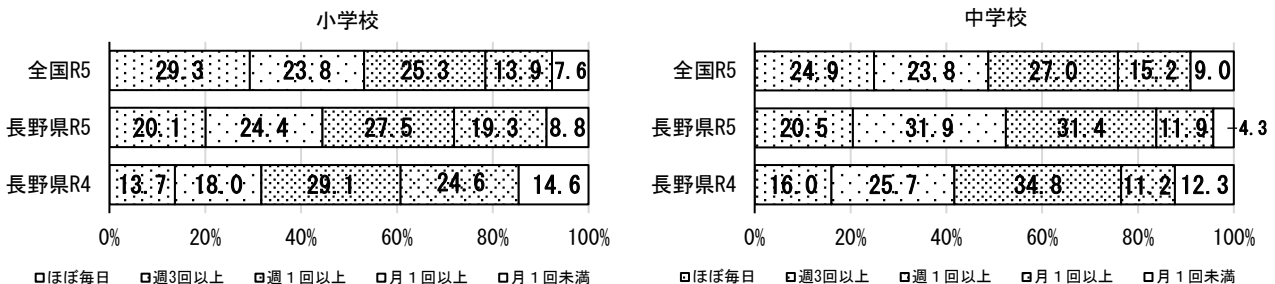
【学校質問紙】 調査対象学年の児童（生徒）が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童（生徒）一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用させていますか



【学校質問紙】 調査対象学年の児童（生徒）が自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、児童（生徒）一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用させていますか



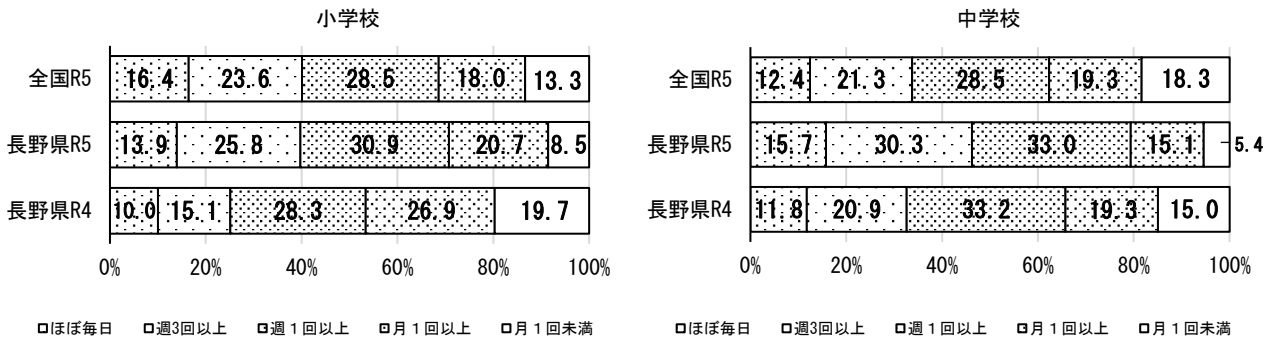
【学校質問紙】 教職員と調査対象学年の児童（生徒）がやりとりする場面では、児童（生徒）一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用させていますか



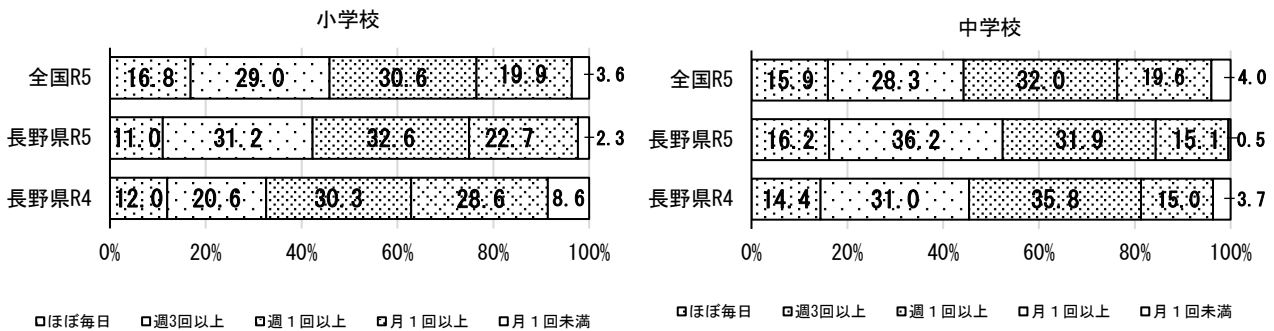
(2) 個別最適な学び（個に応じた指導）や主体的・対話的で深い学びにおける ICT の活用状況等②

- 「児童（生徒）同士がやりとりする場面では、児童（生徒）一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用させているか」について、週3回以上（「ほぼ毎日」も含む）と回答した割合は、小学校・中学校どちらも令和4年度より 10 ポイント以上上昇している。特に中学校は、全国を10ポイント以上上回っている。
- 「児童（生徒）が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童（生徒）一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用させているか」について、週3回以上（「ほぼ毎日」も含む）と回答している割合は、小学校、中学校どちらも令和4年度を上回り、特に中学校では全国を上回り、50%を超えている。

【学校質問紙】 調査対象学年の児童（生徒）同士がやりとりする場面では、児童（生徒）一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用させていますか



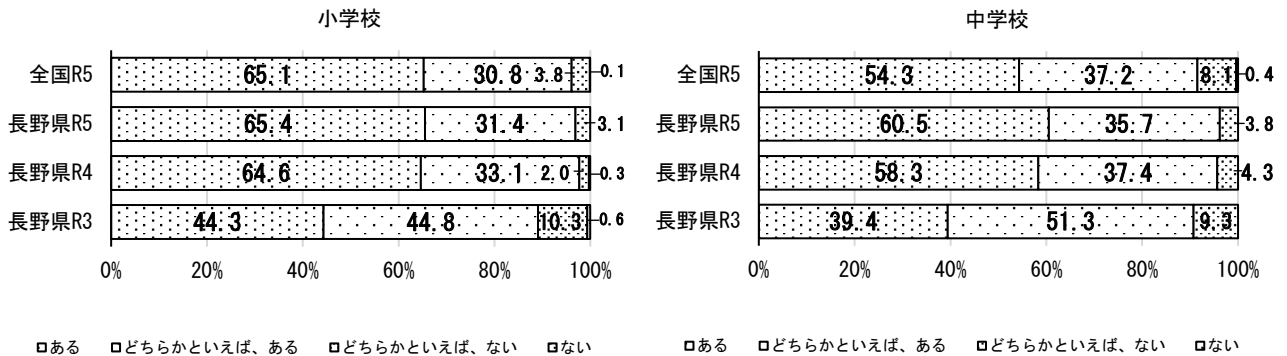
【学校質問紙】 調査対象学年の児童（生徒）が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童（生徒）一人一人に配備された PC・タブレットなどの ICT 機器をどの程度使用させていますか



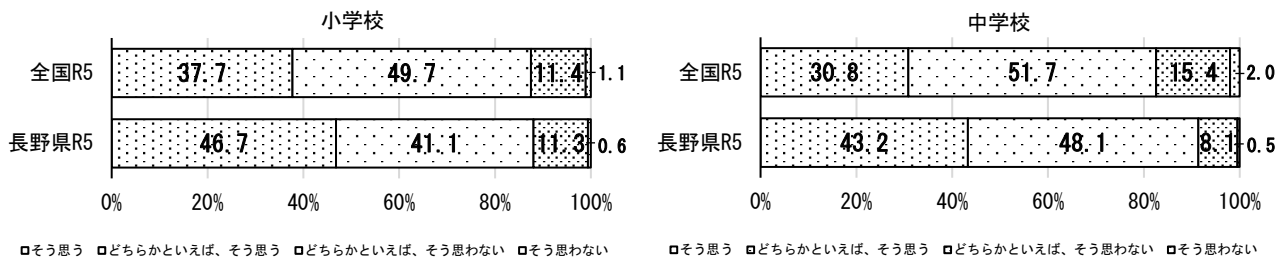
(3) ICTの活用を推進するための有効な取組

- 「教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会があるか」について、「ある」「どちらかといえば、ある」と回答した割合は、小学校、中学校ともに令和4年度同様95%を超えている。
- 「コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられているか」について、「ある」「どちらかといえば、ある」と回答した小学校の割合は、全国同様85%程度であり、中学校は全国を上回り、90%を超えている。

【学校質問紙】教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか



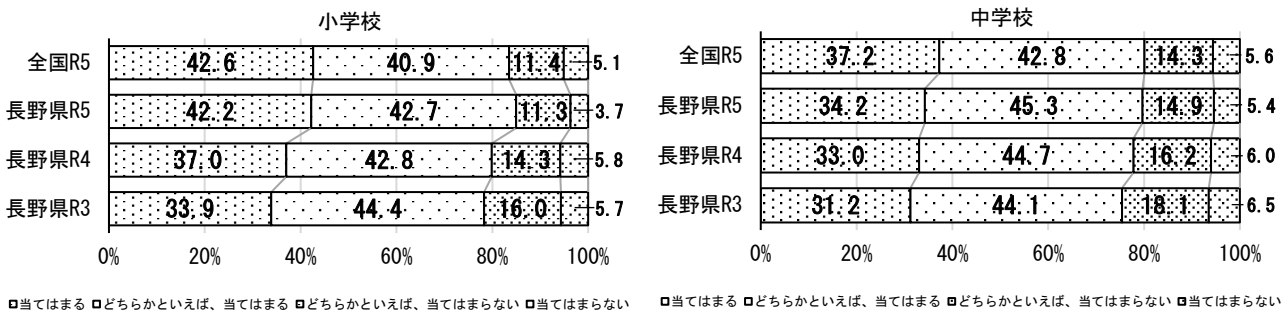
【学校質問紙】コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられていますか



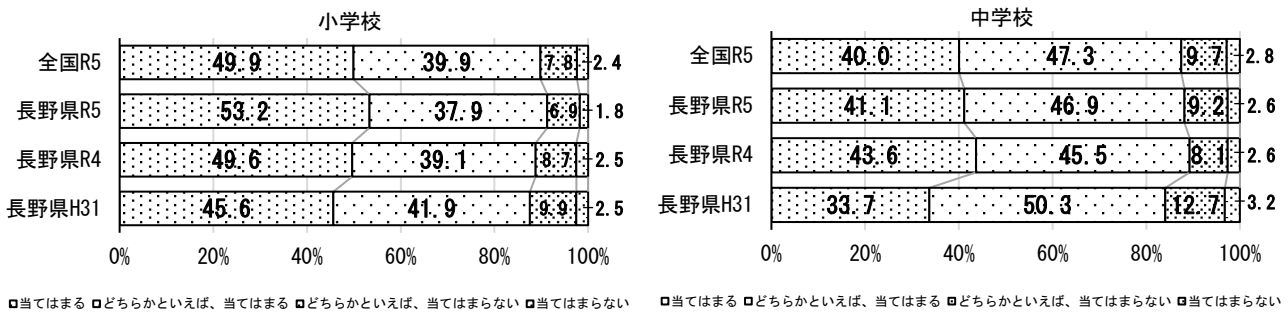
7 児童生徒の挑戦心、自己有用感、幸福感等に関する状況

- 「自分には、よいところがあると思うか」について肯定的に回答した児童生徒の割合は、ともに令和3年度以降、増加している。特に児童の割合は、全国を上回っている。
- 「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思うか」について肯定的に回答した児童生徒の割合は、ともに全国を上回っており、生徒は90%程度、児童は90%を超えている。
- 「将来の夢や目標を持っているか」について肯定的に回答した児童の割合は全国を上回り、80%を超え、生徒の割合は全国と同程度で、65%程度である。
- 「学校に行くのは楽しいと思うか」との質問に肯定的に回答した児童の割合は、全国と令和4年度と同程度であったが、生徒の割合は全国と令和4年度を下回っている。
- 「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思うか」について肯定的に回答した児童生徒の割合は80%程度で、特に児童は令和4年度から4ポイント程度上昇し、全国を上回っている。
- 「友達関係に満足しているか」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいあるか」について肯定的に回答した児童生徒の割合は、いずれも全国同様、90%程度である。
- 「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思うか」との質問に肯定的に回答した児童生徒の割合は、ともに4ポイント以上全国を上回っている。

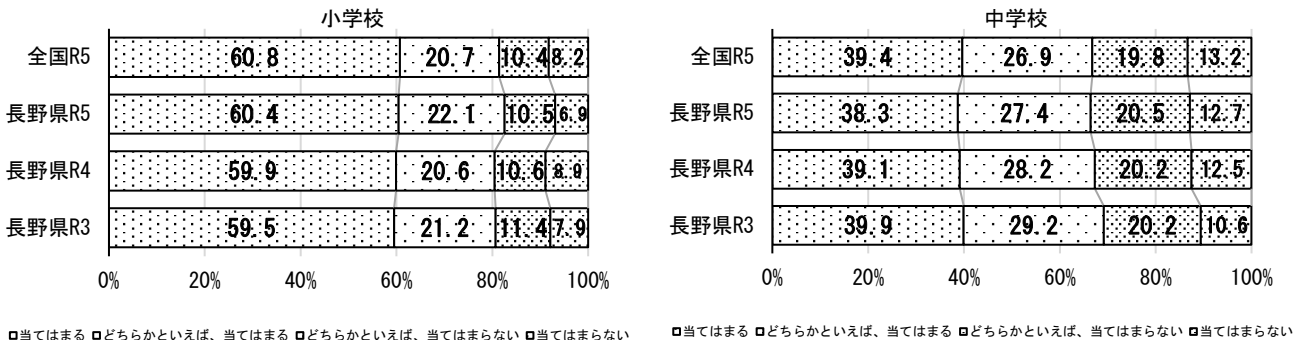
【児童生徒質問紙】自分には、よいところがあると思いますか



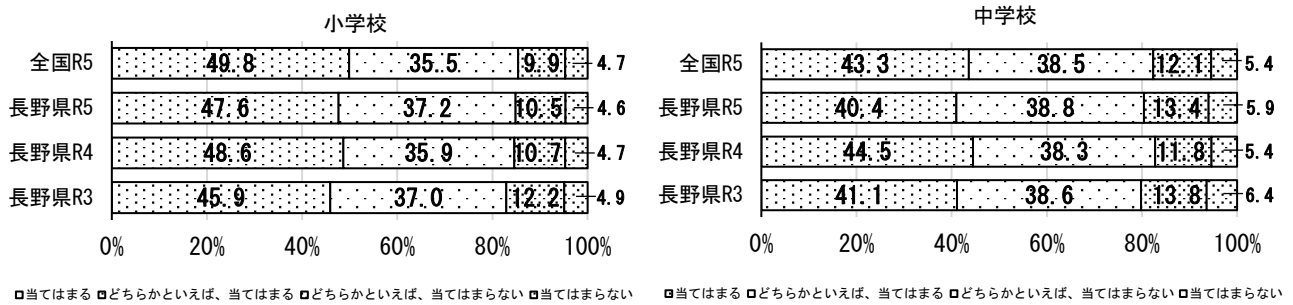
【児童生徒質問紙】先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



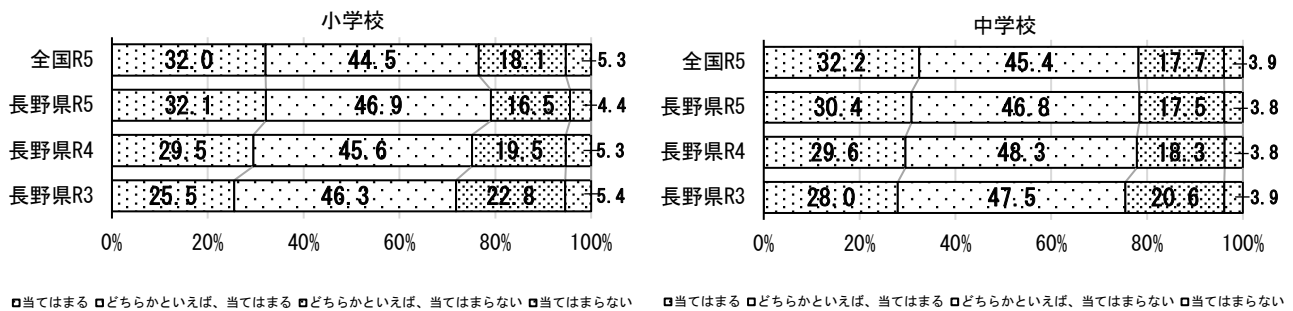
【児童生徒質問紙】将来の夢や目標を持っていますか



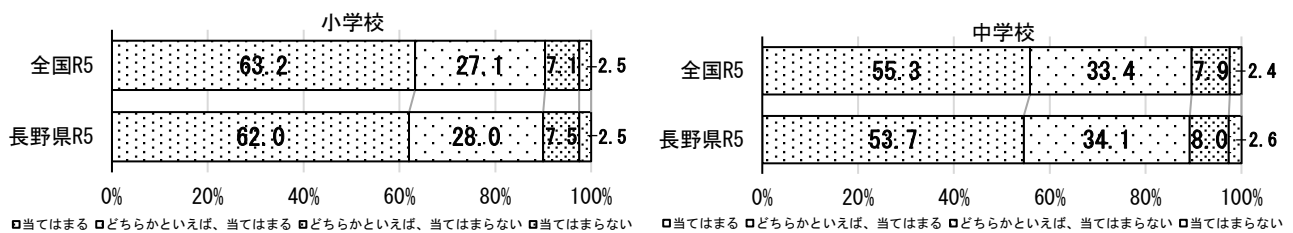
【児童生徒質問紙】学校に行くのは楽しいと思いますか



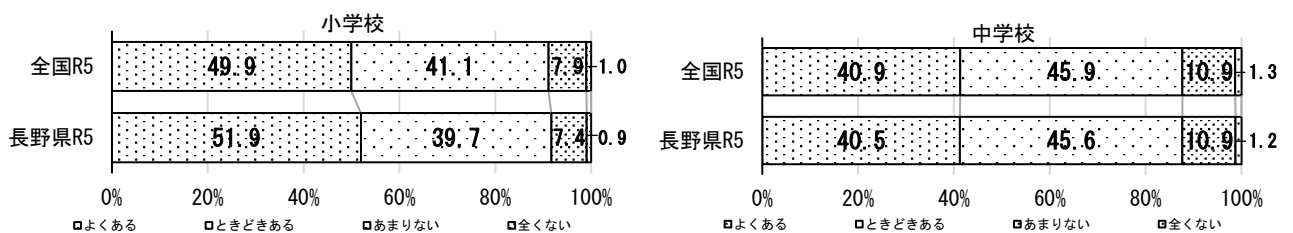
【児童生徒質問紙】自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか



【児童生徒質問紙】友達関係に満足していますか（新規）



【児童生徒質問紙】普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか（新規）



【児童生徒質問紙】地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか（新規）

